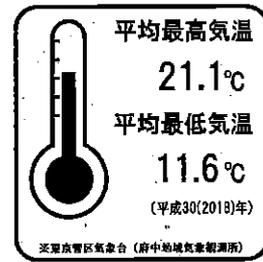
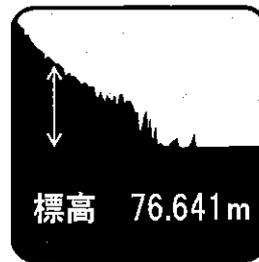


(仮称)小平市第四次長期総合計画策定に向けた

# 基礎資料集

～ あっ、小平ってこんなところ！ ～





# 市民憲章

わたくしたち小平市民は、  
300年前、荒れ果てたこの地に、はじめてくわを打ち込んだ先人たちの  
たくましい開拓精神を受け継ぎ、新たに迎える多くの市民とともに、  
明るく住みよい小平を築くために市民憲章を定めます。

- 1 わたくしたちは みどりを育て  
小鳥の来るまちをつくりましょう
- 1 わたくしたちは 老幼をいたわり  
思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 わたくしたちは 時間を守り  
きまりのよいまちをつくりましょう
- 1 わたくしたちは えがおで働き  
健康なまちをつくりましょう
- 1 わたくしたちは 力を合わせ  
みんなで市民生活を楽しみましょう

制定：昭和47年10月1日

# CONTENTS

## 目次

### はじめに

1

### 第1章 基礎データ

3

第1節 小平市の概況	5
1 位置と地形	5
2 都市構造	6
第1節のPOINT	9
第2節 小平市の人口	10
1 人口動向	10
2 年齢階層別人口動向	13
3 世帯別人口動向	17
4 外国人人口	19
第2節のPOINT	20
第3節 行財政	21
1 職員	21
2 情報公開	22
3 広報	22
4 防災・治安	24
5 財政	27
6 税	29
7 公共施設	33
第3節のPOINT	34
第4節 地域振興	35
1 市民協働・男女共同参画	35
2 産業	38
3 文化・スポーツ	44
第4節のPOINT	47
第5節 子ども家庭	48
1 保育・幼稚園	48
2 子育て支援	51
3 学童クラブ	52
4 手当助成等	53
第5節のPOINT	55
第6節 健康福祉	56
1 生活支援	56

2 高齢者支援	58
3 障がい者支援	59
4 健康推進	61
5 保険年金	63
第6節のPOINT	65

第7節 環境	66
1 環境	66
2 資源循環	68
3 公園と用水	70
4 下水道	72
第7節のPOINT	74

第8節 都市開発	75
1 都市計画	75
2 地域整備	78
3 道路	79
4 交通対策	82
第8節のPOINT	83
コラム	84

第9節 教育	85
1 学校	85
2 地域教育	91
3 公民館・図書館、地域センター	92
第9節のPOINT	93

附節 広域連携	94
1 制度	94
2 滞在人口	95
3 その他、小平市における 広域連携の取組の例	95
コラム	96

### 第2章 地域

99

第1節 「地域」を考える背景	101
第2節 小平市における地域 ・地区割の考え方	103
1 地域・地区割の記述がある計画	103
2 地区割を行っている施策等	106

### 第3節 小平市における地域

#### ・地区割を考える際に

##### 配慮すべき視点・事項 —111

- 1 地域ごとの特性、街並みの状況等—111
- 2 住民の生活実態・意識等 ————111
- 3 人口規模・人口密度 ————112
- 4 歴史的な経緯等 ————112

### 第4節 小平市における地域・地区割の

#### 目的等と考え方の整理—113

- 1 地域・地区割を行う目的等の整理—113
- 2 地域・地区割の考え方の整理 ————114

## 第3章 財政分析 117

### 第1節 市の財政事情 ————119

### 第2節 市財政の概要 ————120

- 1 歳入 ————120
- 2 歳出 ————122
- 3 基金・市債等 ————124
- 4 財政指標 ————127
- 5 財務諸表 ————129

### 第3節 個人市民税の分析 ————130

- 1 平成29(2017)年度の状況 - 130
- 2 直近5年間の推移 ————131

### 第4節 一般財源の分析 ————135

- 1 一般財源の概要 ————135
  - 2 一般財源の推移 ————136
  - 3 一般財源の解析 ————140
- コラム ————142

### 第5節 おわりに ————153

## 附 録 社会潮流 155

- 1 各分野における社会潮流—157
- 2 ライフサイクルから考える社会潮流—162
- 3 変化への対応—167
- 4 持続可能な社会に向けた  
3つのポイント(視点) ————169

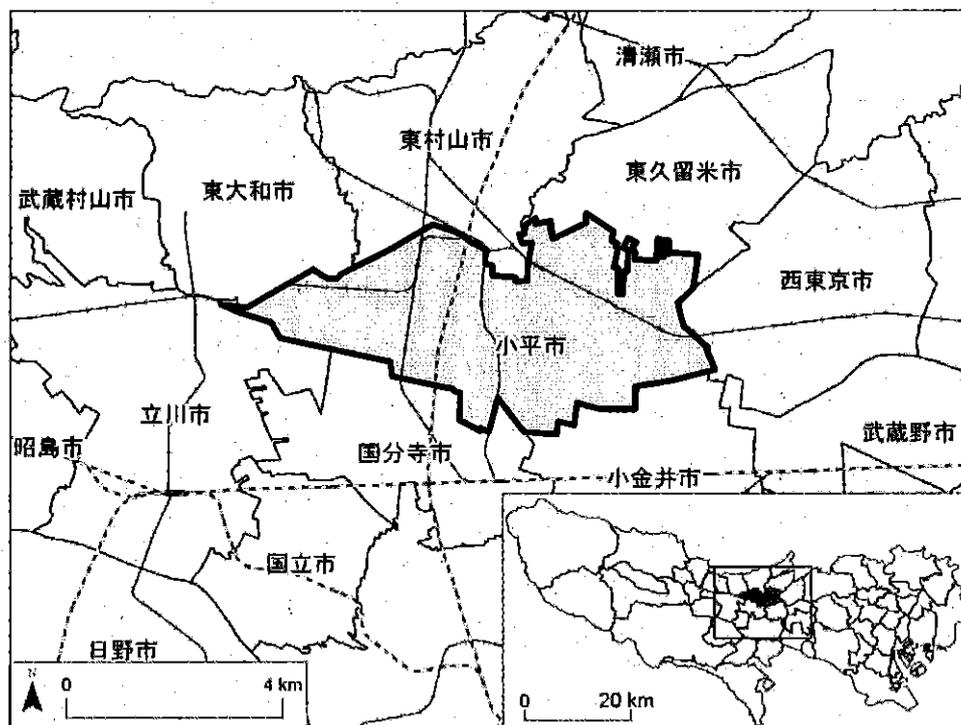
## 用語集 173

# 第1節 小平市の概況

## 1 位置と地形

小平市は、東京の都心から西側 26 キロメートル付近に位置し、面積は 20.51 平方キロメートルである。東は西東京市、北は東久留米市、東村山市、東大和市、南は立川市、国分寺市、小金井市に接している。市域全体が武蔵野台地上に位置するため、標高差の少ない平坦な地形であるものの、地下水位が低く、本格的な集落や農地の開発は江戸時代の玉川上水の開通（承応 3（1654）年）をきっかけとして始まった。玉川上水から用水を引き、農業や生活のために利用することで、江戸の近郊農村として開発が進み、現在も青梅街道などの主要な街道を中心に、整然と区画された短冊型の地割の様子が残っている。

図表 1-1-1 小平市と周辺自治体との位置関係



出典：小平市産業振興基本計画

## 2 都市構造

### (1) 都市構造

図表 1-1-2 は、各自治体の通勤者が、最も多く通勤している地域がどこかという都市構造を表している。また、図表中の同心円は、皇居からそれぞれ 20 キロメートル、30 キロメートル、40 キロメートルの地点を表している。小平市よりも同心円の中心に近い地域については、都心部へ通勤する者が多く、小平市よりも同心円の外側の地域については、都心部以外へ通勤している者が多い傾向にある。小平市は都心部へ通勤する者が多い地域としては最も遠い位置にあるベッドタウンであることが分かる。

図表 1-1-2 通勤地から見る都市構造 (平成 27 年)

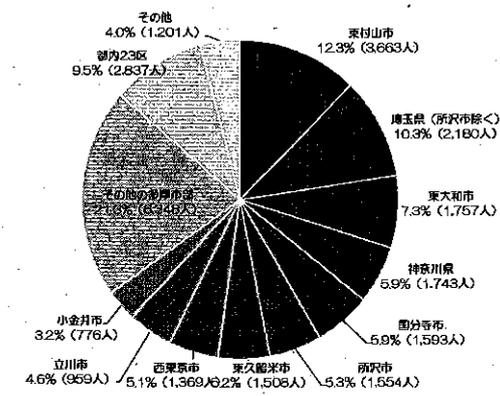
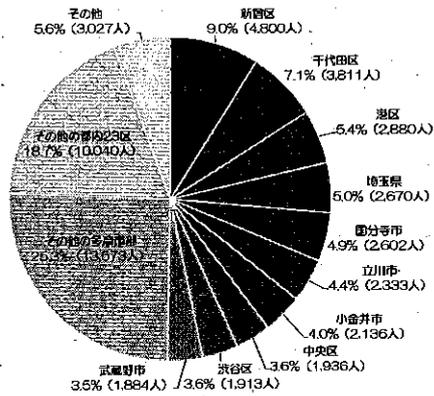


出典：国勢調査

図表 1-1-3は、市内居住者（15歳以上）の主な通勤先の内訳を、図表 1-1-4は、小平市への通勤者（15歳以上）の居住地の内訳を表している。市内居住者が最も多く通勤しているのは新宿区で、小平市への通勤者の居住地としては、東村山市が最も多くなっている。

図表 1-1-3 市内居住者の主な通勤先

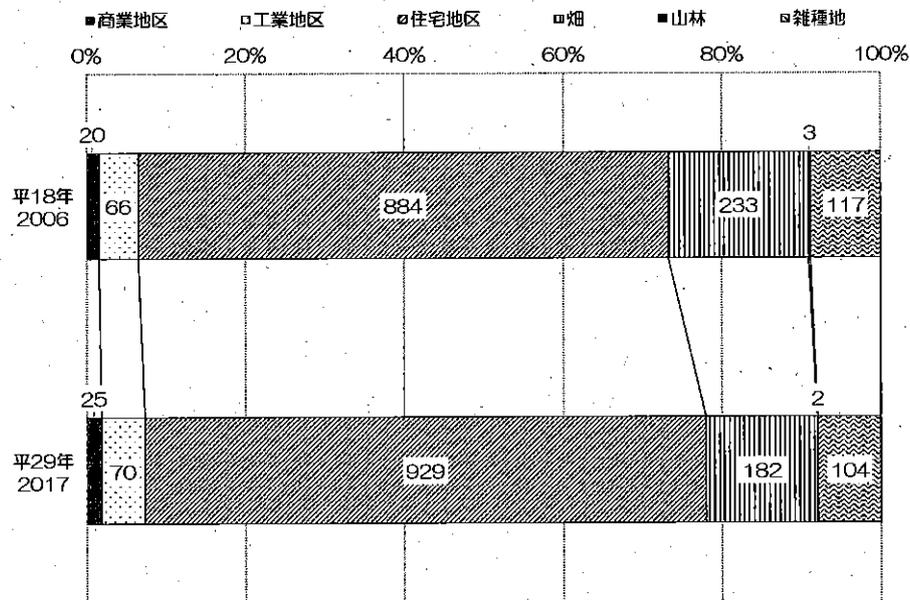
図表 1-1-4 小平市への通勤者の主な居住地



注：ともに平成 27 年  
出典：国勢調査

図表 1-1-5は、小平市の土地の地目別課税面積の変化を表している。土地面積は住宅地区が最も多く、平成 18（2006）年に比べ 4.5 ポイント増加し、全体の約 70%を占めている。一方、畑は平成 18（2006）年に比べ 5.1 ポイント減少している。

図表 1-1-5 土地の地目別課税面積 (ha)

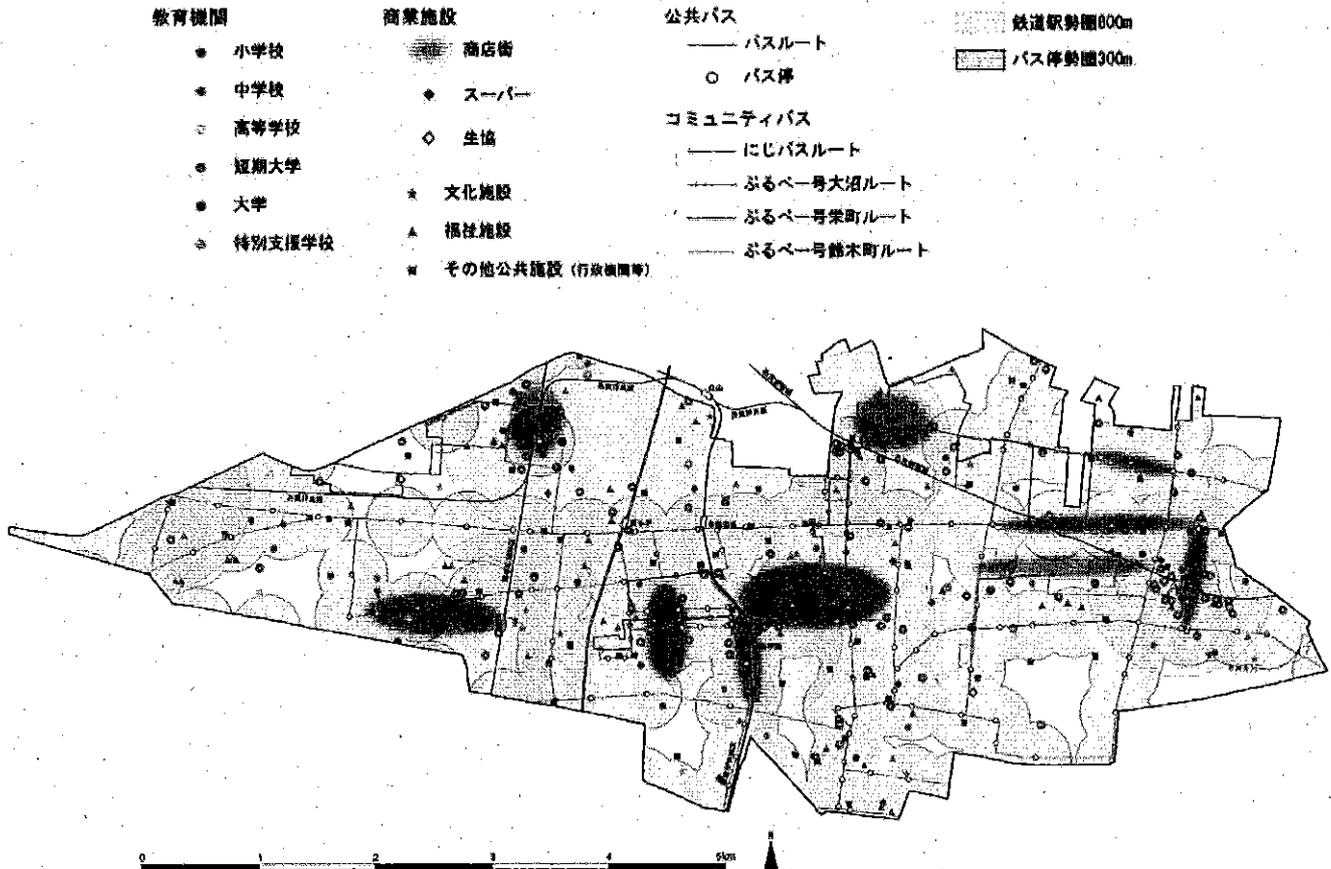


出典：小平市 統計書

## （2）交通環境

図表 1-1-6 は、小平市の鉄道駅・バス停の勢圏\*を表している。市内に鉄道駅を 7 駅有するだけでなく、市外（近隣市）にも利用可能な駅（菟山駅、八坂駅、東大和市駅、玉川上水駅、国分寺駅、武蔵小金井駅など）が複数あるほか、駅勢圏から外れる地域においても、それを補完する形で路線バスなどの公共交通が発達しているため、都心へのアクセス性に優れている。

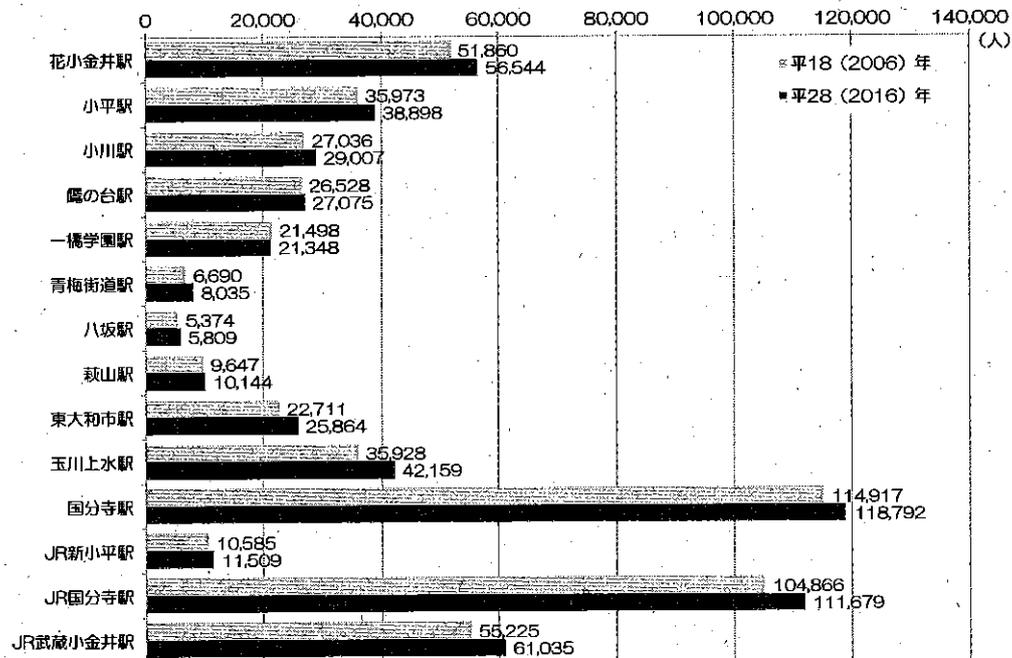
図表 1-1-6 鉄道駅・バス停の勢圏（平成 28 年度）



出典：小平市都市計画マスタープラン

図表 1-1-7は、市内及び隣接する位置にある鉄道駅における 1 日平均乗降者人員の変化を表している。市内では、花小金井駅の乗降者人員が最も多い。また、10 年前と比べ、一橋学園駅を除く各駅で乗降者人員（JR 新小平駅は乗車人員）が増加しており、青梅街道駅では約 20%増加している。

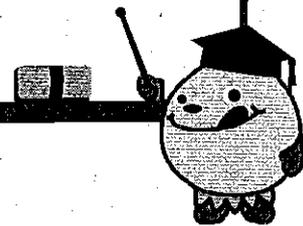
図表 1-1-7 市内及び隣接する位置にある各駅における 1 日平均乗降者人員数



注：西武鉄道の各駅は乗降者人員、JRの各駅は乗車人員のみ  
出典：西武鉄道株式会社・東日本旅客鉄道株式会社

第1節の POINT

- 住宅面積が増加する一方、畑の面積が減少している。
- 駅が多く、公共交通が網羅されていることから、都心部へ通勤する者が多いベッドタウンとなっている。

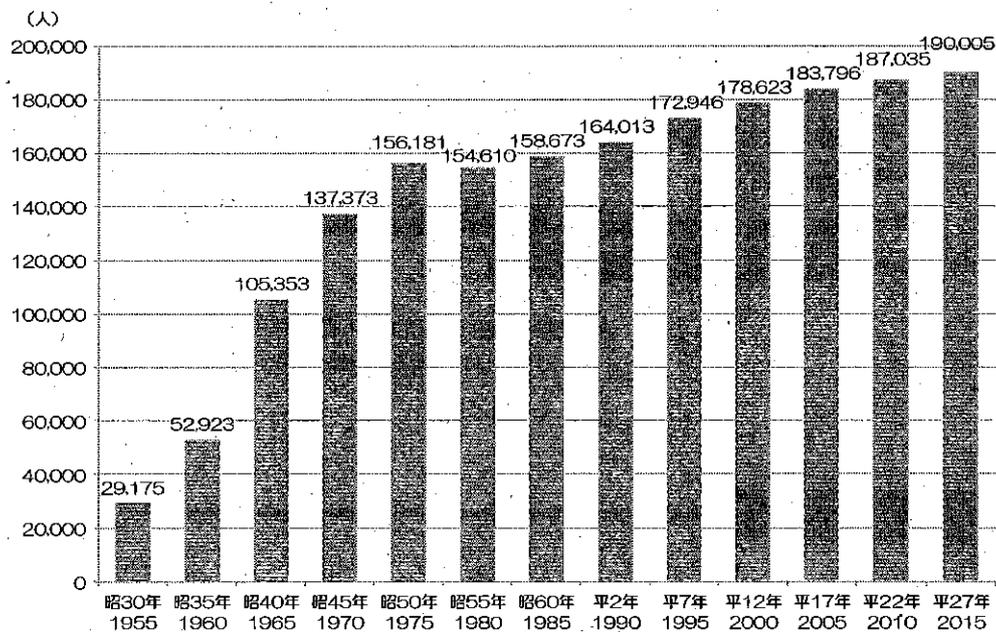


## 第2節 小平市の人口

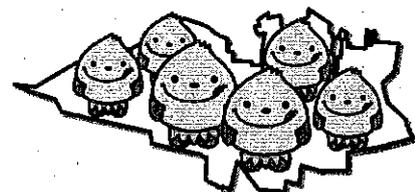
### 1 人口動向

図表 1-2-1 は、これまでの小平市の人口推移を表している。小平市の人口は、昭和 30～40 年代にそれまで農地であったところが新たに住宅地として開発されたことや、工場や団地が建設されたことなどにより大幅に増加し、以降も微増を続け、平成 27 (2015) 年の国勢調査では 19 万人を超えた。

図表 1-2-1 これまでの人口推移

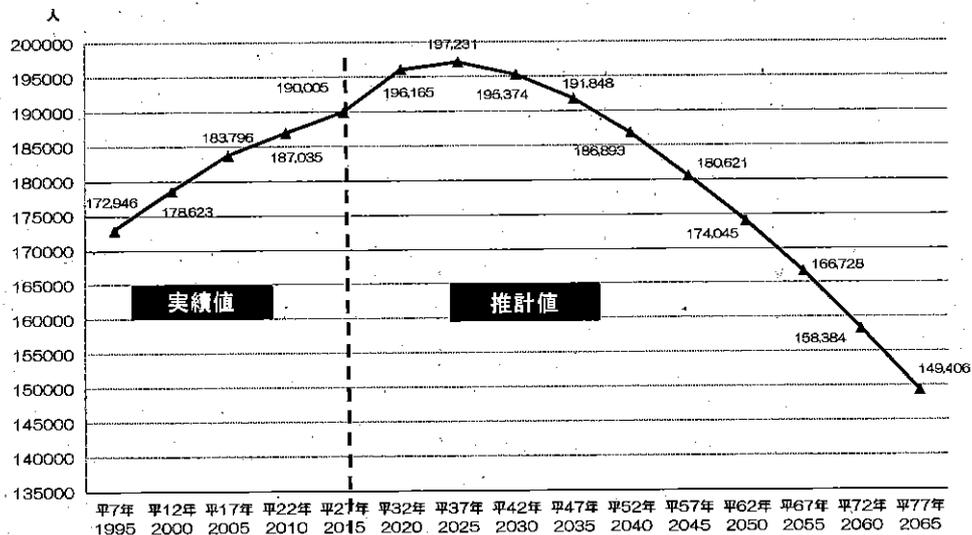


出典：国勢調査



図表 1-2-2 は、平成 77(2065)年までの小平市の人口推計を表している。平成 37(2025)年をピークにその後減少傾向となり、平成 57(2045)年には 180,621 人、平成 77(2065)年には 149,406 人になると推計されている。

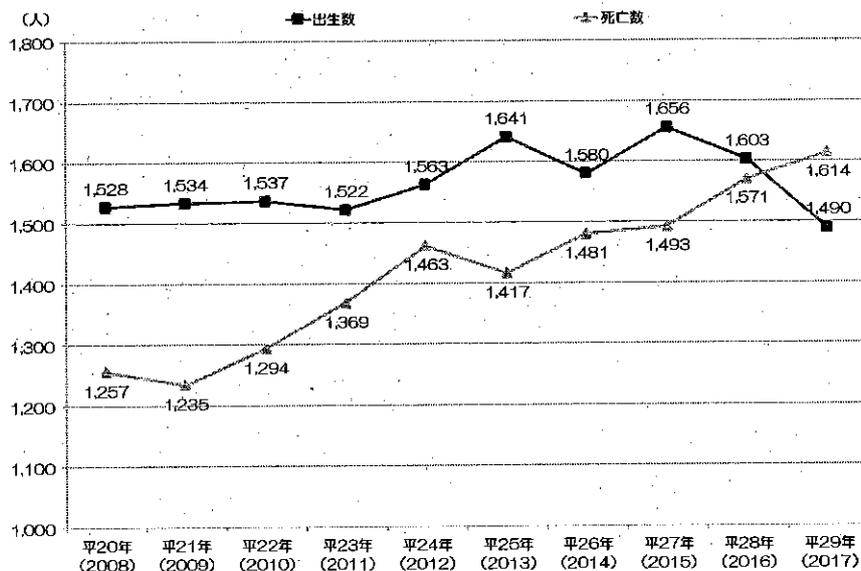
図表 1-2-2 平成 77 (2065) 年までの人口推計



出典：小平市人口推計報告書補足版（令和元年 8 月）

図表 1-2-3 は、小平市の出生数及び死亡数の推移を表している。平成 28 (2016) 年までは出生数が死亡数を上回っていたものの、平成 29 (2017) 年に初めて、死亡数が出生数を上回った。

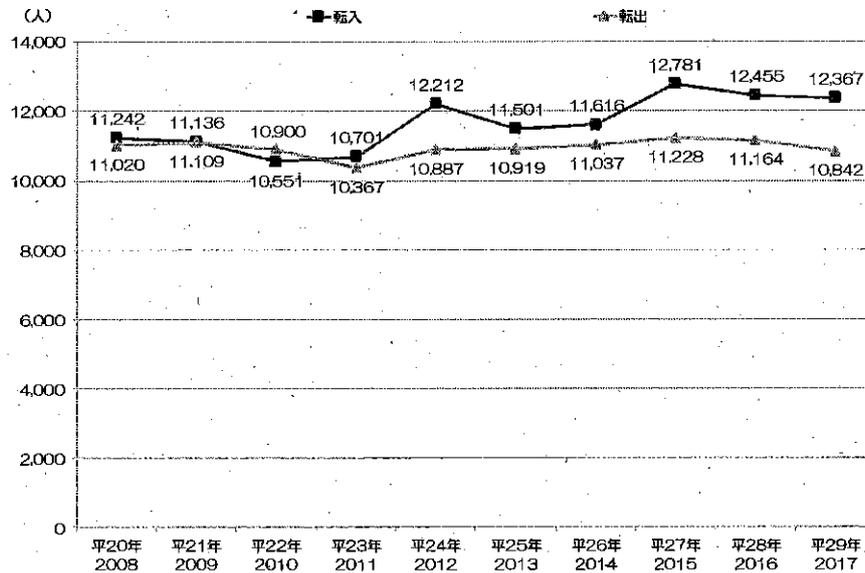
図表 1-2-3 出生数及び死亡数



出典：市民課

図表 1-2-4 は、小平市の人口の転出入数の推移を表している。平成 23（2011）年以降、転入人口が転出人口を上回る状況が続いている。

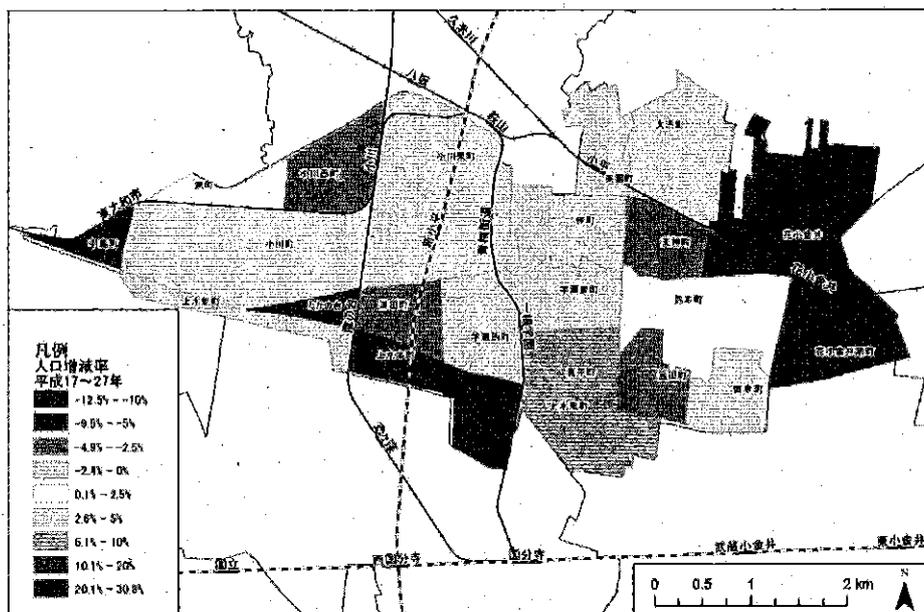
図表 1-2-4 人口の転出入数



出典：市民課

図表 1-2-5 は、小平市の町丁別の人口増減率を表している。大規模な集合住宅などが建設された花小金井が 30.8%、上水本町が 26.2%（ともに平成 17（2005）年対比）と大きく増加している。

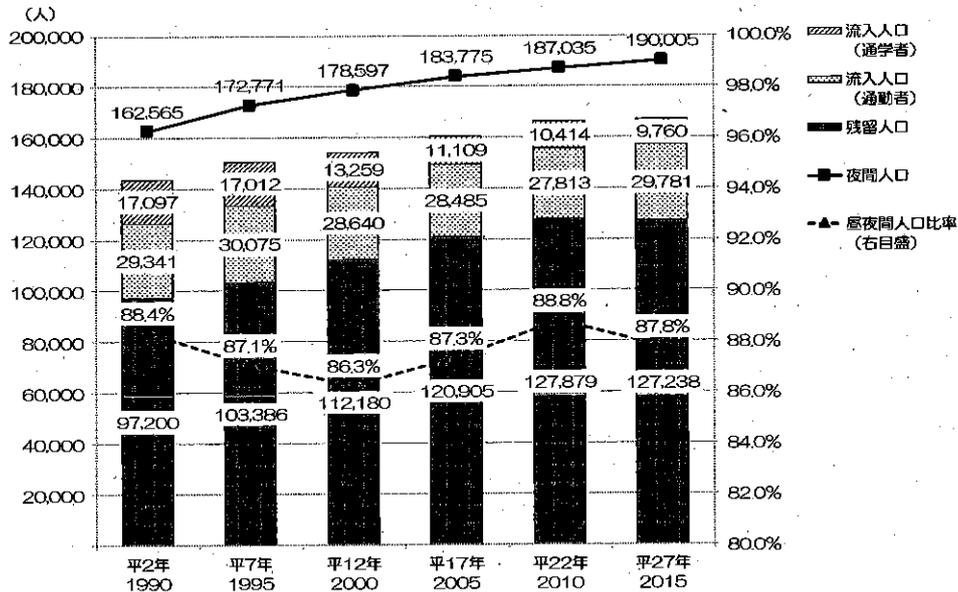
図表 1-2-5 町丁別の人口増減率（平成 17～27 年）



出典：小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画の策定に向けた基礎調査報告書

図表 1-2-6 は、小平市の昼夜間人口比率\*の推移を表している。平成 12 (2000) 年から平成 22 (2010) 年にかけて上昇傾向であったものの、平成 27 (2015) 年には 87.8 と下落した。

図表 1-2-6 昼夜間人口比率



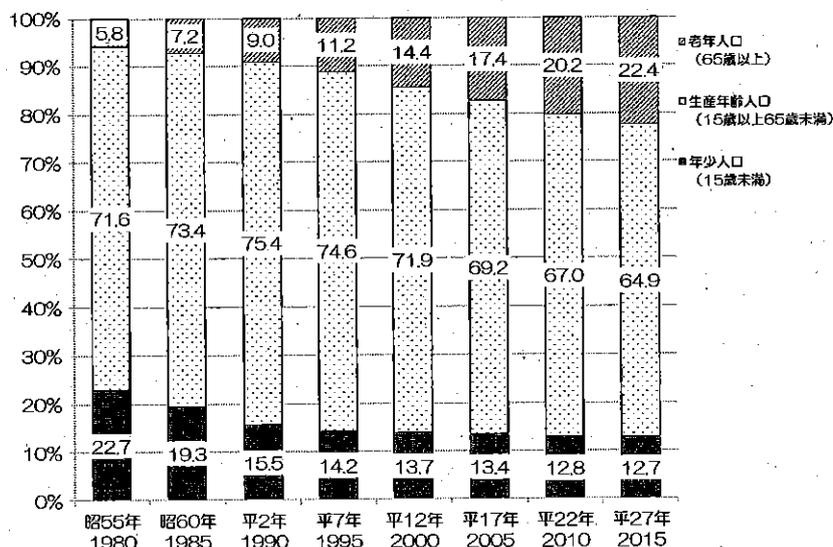
注：平成 17 年 (2005) までは人口に年齢不詳人口を含まない。

出典：国勢調査

## 2 年齢階層別人口動向

図表 1-2-7 は、小平市の年齢階層別人口割合の推移を表している。年少人口 (15 歳未満の人口) や生産年齢人口 (15 歳以上 65 歳未満人口) の割合は、比較的緩やかではあるものの減少傾向にあり、老年人口 (65 歳以上の人口) は、明らかな増加傾向を示している。

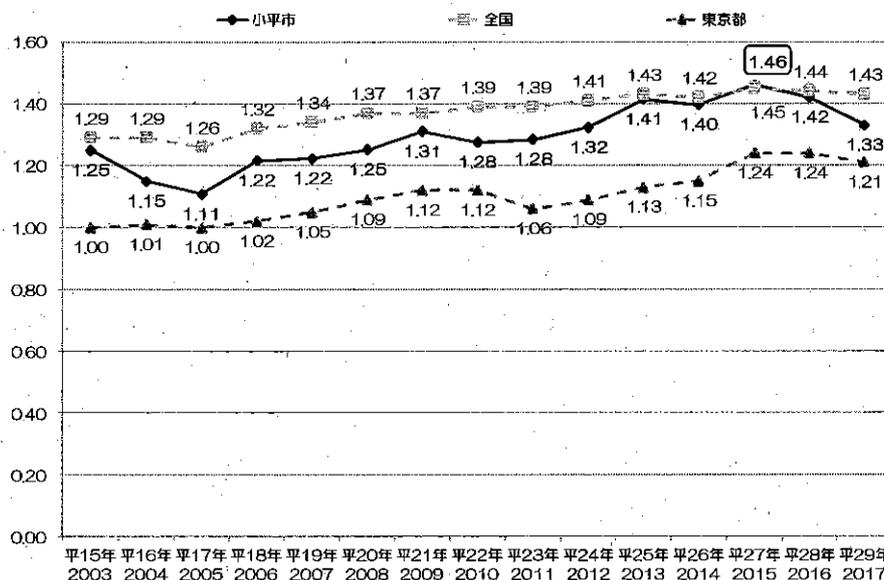
図表 1-2-7 年齢階層別人口割合の推移



出典：国勢調査

図表 1-2-8 は、小平市と全国及び東京都の合計特殊出生率\*の推移を表している。小平市では平成 17 (2005) 年の 1.11 を底に徐々に上昇して、平成 27 (2015) 年には 1.46 と全国の値を上回り、平成 29 (2017) 年には 1.33 となった。

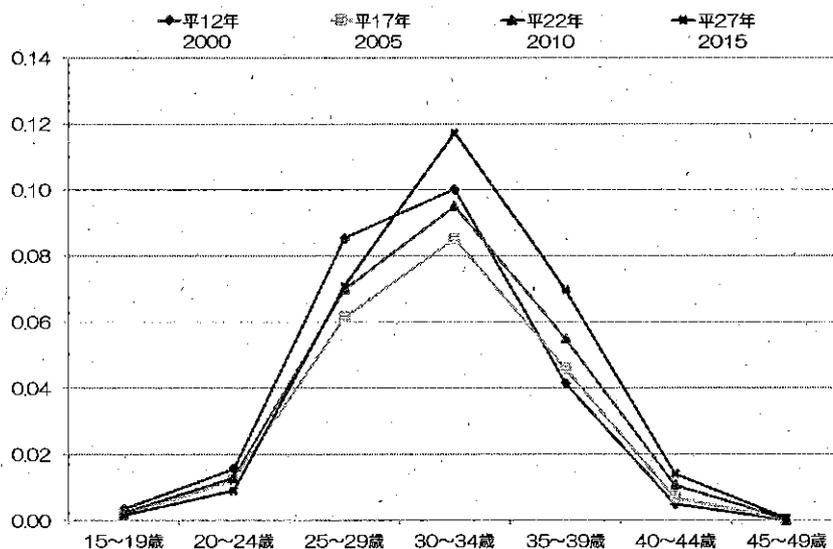
図表 1-2-8 合計特殊出生率 (各年 1 月 1 日現在)



出典：東京都 人口動態統計年報

図表 1-2-9 は、小平市の母親の年齢別出生率の推移を表している。どの調査年においても第 1 の山は、30~34 歳であるものの、母親の年齢 35~39 歳の出生率は増加している。

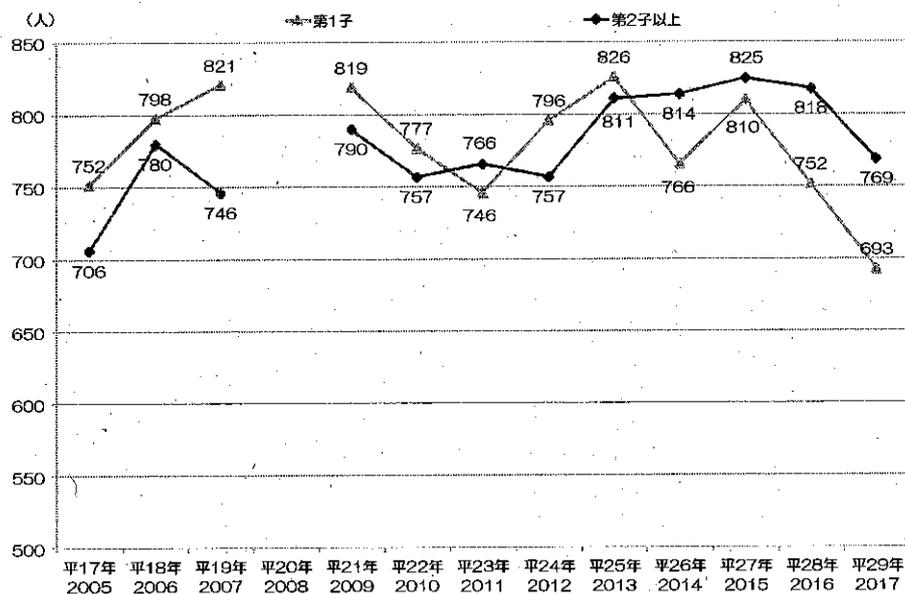
図表 1-2-9 母親の年齢別出生率



出典：人口動態統計調査、国勢調査

図表 1-2-10 は、小平市の出生順位別出生数の推移を表している。第 1 子の出生数は年によってばらつきがあるものの、平成 26 (2014) 年以降は第 2 子以上の出生数が第 1 子の出生数を上回っている。

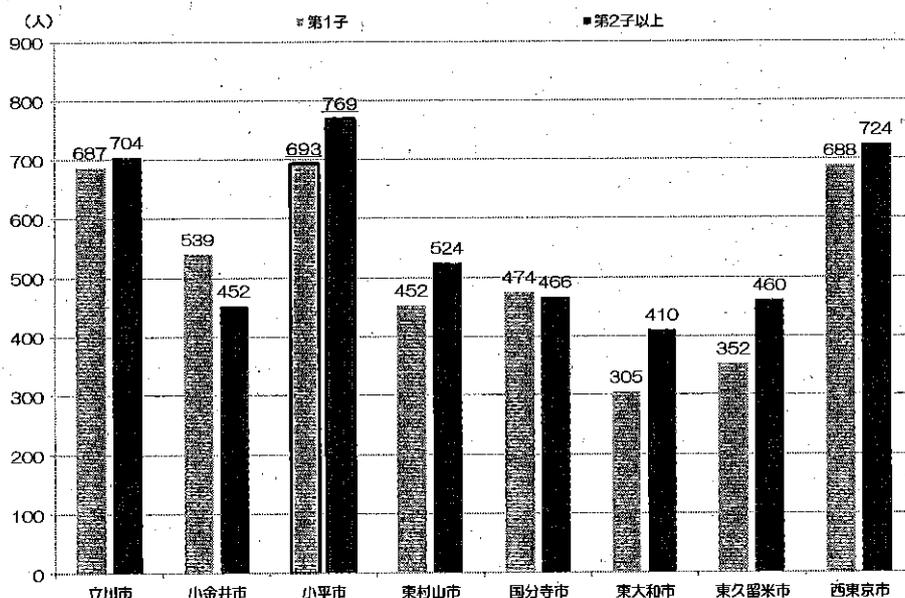
図表 1-2-10 出生順位別出生数



注：平成 20 年のデータは公表されていない。  
出典：北多摩北部保健医療圏保健医療福祉データ集

図表 1-2-11 は、小平市と隣接 7 市の出生順位別出生数を表している。第 1 子及び第 2 子以上ともに、小平市が最も多くなっている。

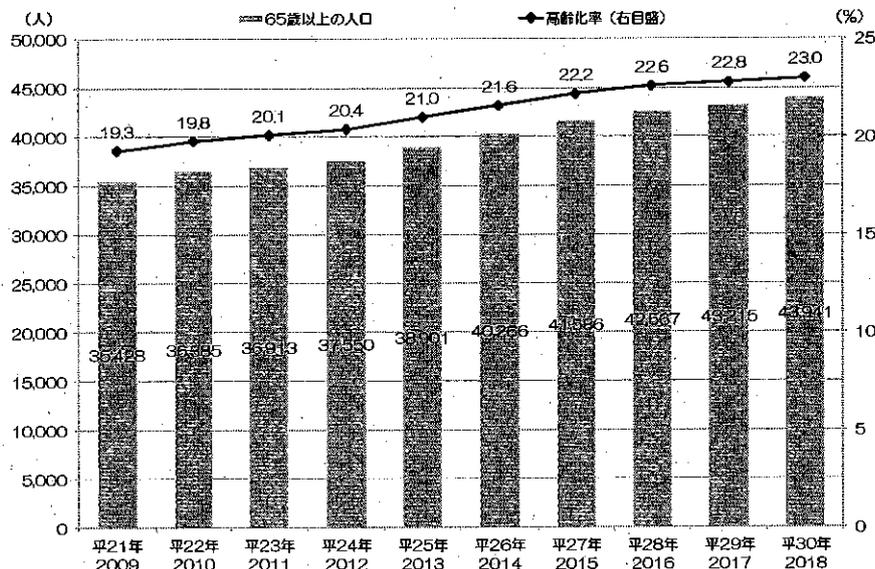
図表 1-2-11 出生順位別出生数 (平成 29 (2017) 年)



出典：北多摩北部、北多摩南部、北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集

図表 1-2-12 は、小平市の 65 歳以上の人口と高齢化率\*の推移を表している。65 歳以上の人口及び高齢化率ともに年々増加し、平成 25 (2013) 年には 21.0%に達し、高齢社会\*から超高齢社会\*へ移行した。

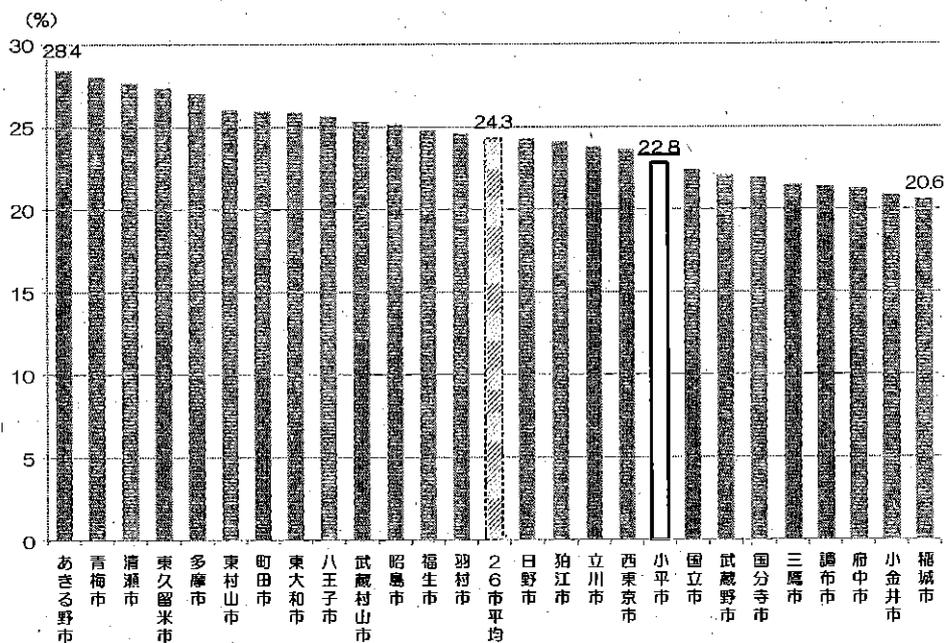
図表 1-2-12 65 歳以上人口と高齢化率



出典：小平市 統計書

図表 1-2-13 は、多摩地域 26 市の 65 歳以上の人口割合を高い順に表している。小平市は割合の低い方から数えて 9 番目であり、多摩地域 26 市の平均より 1.5 ポイント低い。

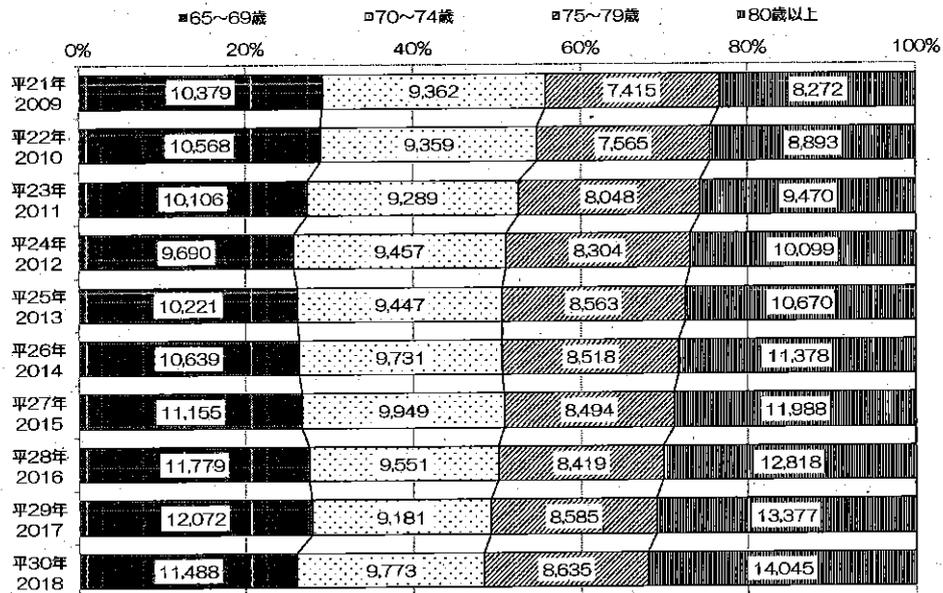
図表 1-2-13 65 歳以上人口割合 (平成 29 年 1 月 1 日現在)



出典：多摩地域データブック

図表 1-2-14 は、小平市の老年人口の年齢別割合の推移を表している。5 歳年齢階級ごとに見ると、65 歳以上の人口に占める 80 歳以上の人口の割合は年々増加している。

図表 1-2-14 年齢別老年人口割合の推移（各年 1 月 1 日現在）

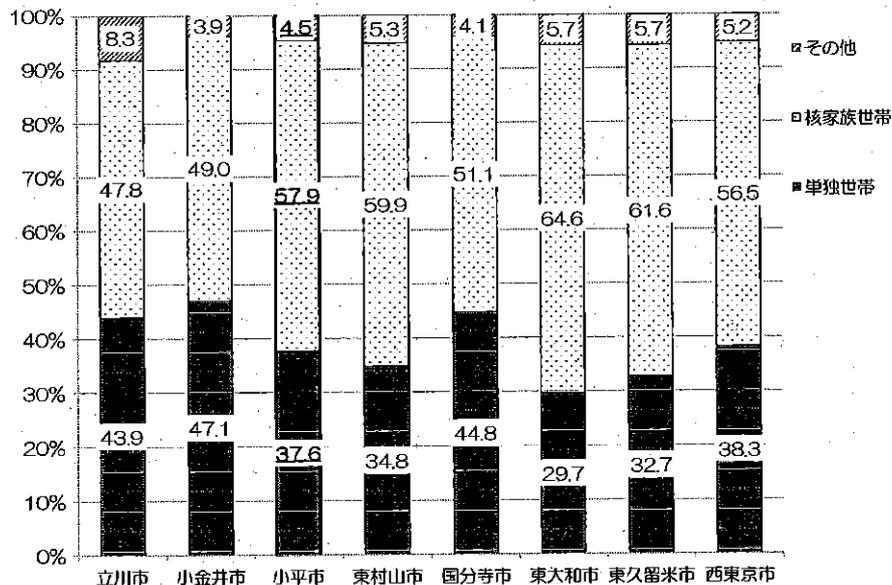


出典：小平市 統計書

### 3 世帯別人口動向

図表 1-2-15 は、小平市と隣接 7 市の家族類型別世帯数の割合を表している。JR 中央線沿線上の立川市、小金井市、国分寺市では、単独世帯\*の割合が 40%を超えているのに対し、その他の市では核家族世帯の割合が 60%程度となっている。

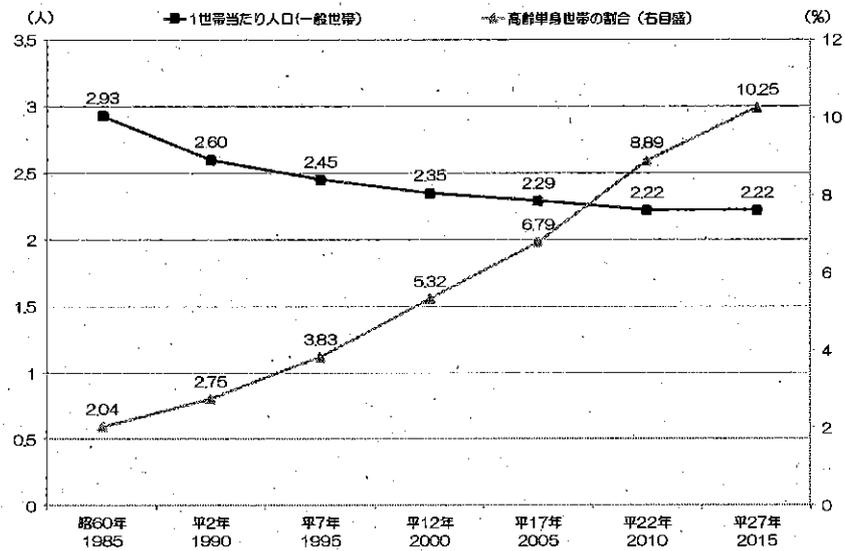
図表 1-2-15 家族類型別世帯数割合（平成 27 年）



出典：国勢調査

図表 1-2-16 は、小平市の 1 世帯当たり人口（一般世帯\*）と一般世帯に占める高齢単身世帯の割合の推移を表している。高齢単身世帯の割合の増加に合わせて、1 世帯当たり人口が減少している。

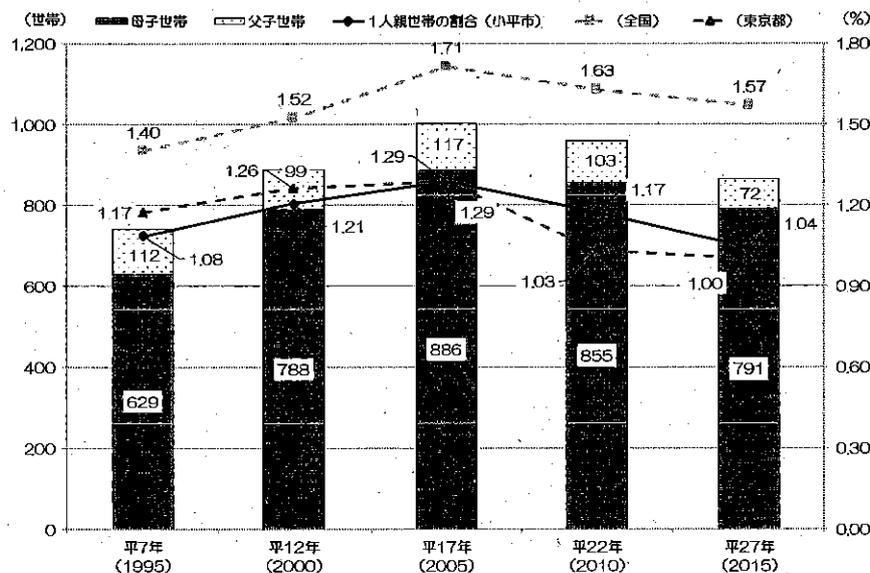
図表 1-2-16 1 世帯当たり人口と高齢単身世帯の割合



出典：国勢調査

図表 1-2-17 は、小平市の 1 人親世帯数と小平市と全国及び東京都の一般世帯に占める 1 人親世帯の割合の推移を表している。母子世帯\*及び父子世帯\*ともに、平成 17（2005）年をピークに減少傾向で推移している。また、一般世帯に占める 1 人親世帯の割合は、全国と比較すると低くなっており、東京都とほぼ同じ水準で推移している。

図表 1-2-17 1 人親世帯数と 1 人親世帯割合

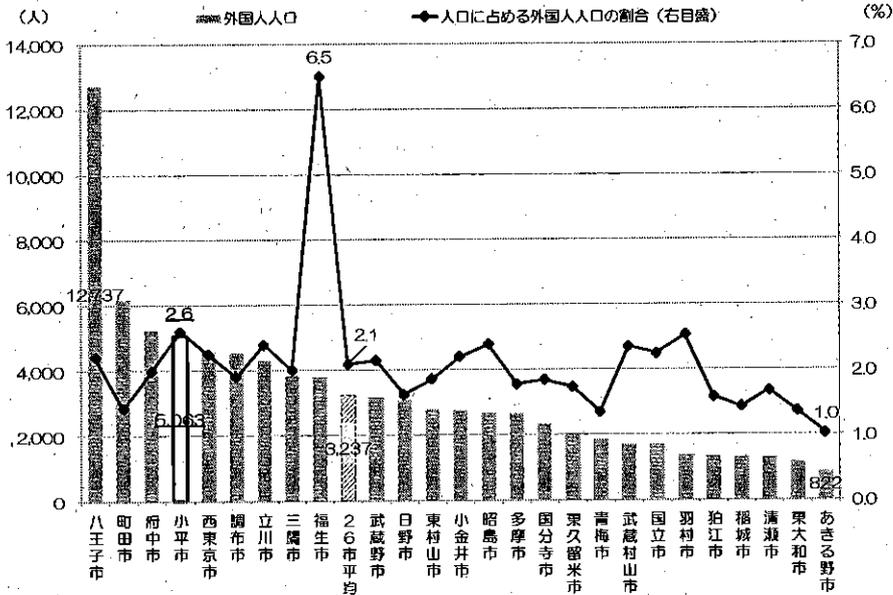


出典：国勢調査

## 4 外国人人口

図表 1-2-18 は、多摩地域 26 市の外国人人口と人口に占める外国人人口の割合を、外国人人口の多い順に表している。小平市の外国人人口は多い方から数えて 4 番目であり、人口に占める外国人人口の割合は、多摩地域 26 市の中で 2 番目に高くなっている。

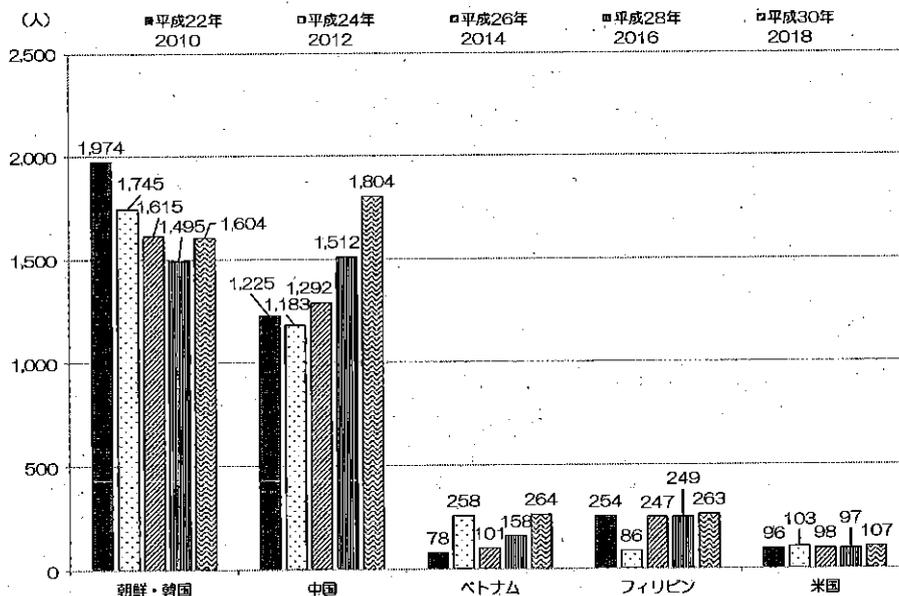
図表 1-2-18 外国人人口と人口に占める外国人人口の割合（平成 30 年 10 月 1 日現在）



出典：東京都外国人人口、東京都の人口（推計）

図表 1-2-19 は、小平市の平成 30（2018）年の上位 5 ケ国の国籍別外国人住民数の推移を表している。朝鮮・韓国と中国が半数以上を占めているが、朝鮮・韓国は減少している一方、中国は増加傾向にある。また、その他の国籍の外国人も横ばいか増加している傾向にある。

図表 1-2-19 国籍別外国人住民数

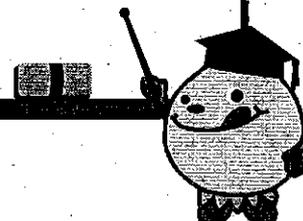


出典：小平市の人口



## 第2節の POINT

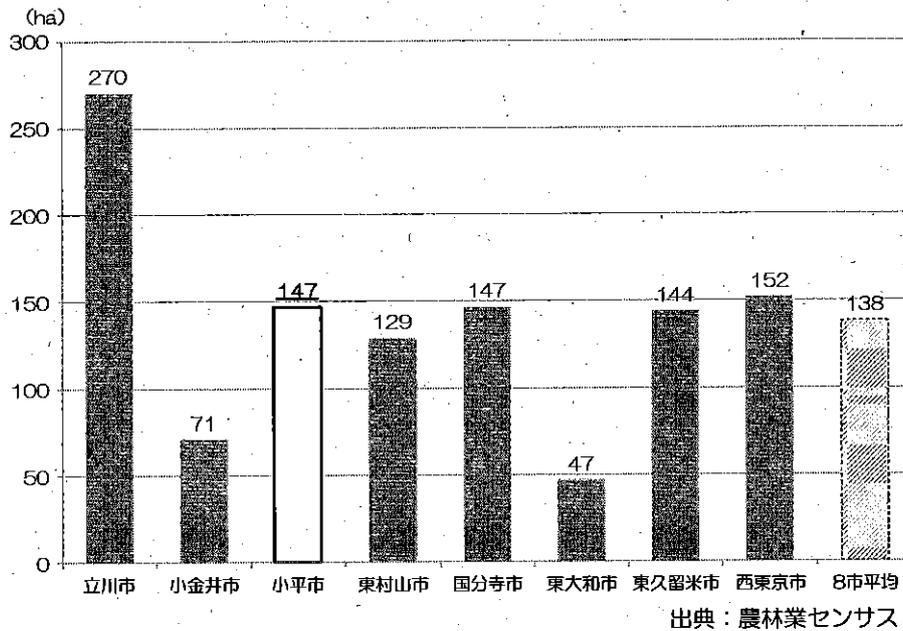
- 人口はこれまで増加傾向で推移してきたものの、今後は人口が減少すると推計されている。
- 平成 23 (2011) 年以降、転入人口が転出人口を上回っており、花小金井、上水本町などを中心に人口が増加している。農地の宅地開発や工場跡地や社宅跡地での大規模な集合住宅などの建設が要因の1つと考えられる。
- これまで人口は増加傾向で推移してきたものの、年少人口や生産年齢人口の割合は減少傾向にある。
- 合計特殊出生率は、全国平均を下回っているものの、東京都平均を常に上回っている。平成 26 (2014) 年以降は第 2 子以上の出生数が第 1 子の出生数を上回っており、隣接 7 市との比較においても、第 1 子及び第 2 子以上ともに、小平市の出生数が最も多くなっている。
- 高齢化率は 23.0% に達し、65 歳以上の人口に占める 80 歳以上の人口割合も年々増加している。
- 小平市は多摩地域 26 市の中で外国人住民数が多く、市内に大学等の施設が多いことがその要因の1つと考えられる。



(1) 農業

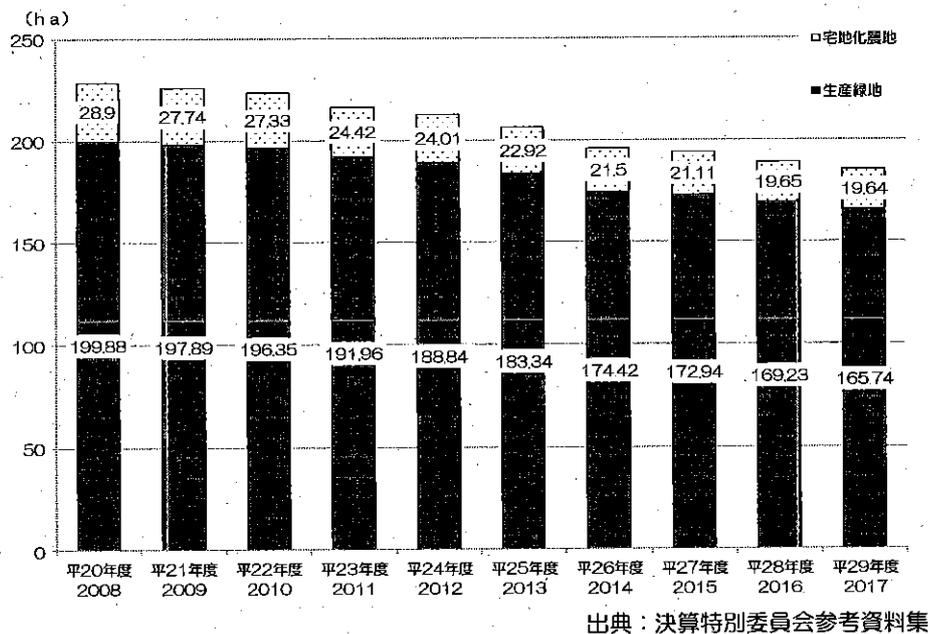
図表 1-4-4 は、小平市と隣接 7 市の耕地面積\*を表している。小平市は立川市、西東京市に次いで面積が広く、8 市平均より 9ha 大きい。

図表 1-4-4 耕地面積 (平成 27 年)



図表 1-4-5 は、小平市の農地面積の推移を表している。生産緑地\*面積及び宅地化農地\*面積ともに、年々減少している。

図表 1-4-5 農地面積



図表 1-4-6 は、小平市と隣接 7 市の農業経営体数\*と消費者に直接販売している農業経営体数を表している。消費者に直接販売している経営体のうち、自営の農産物直売所で販売している経営体の数は、小平市が 137 経営体と最も多く、かつ、農業経営体数全体に占める割合も 60.1%と最も高くなっている。

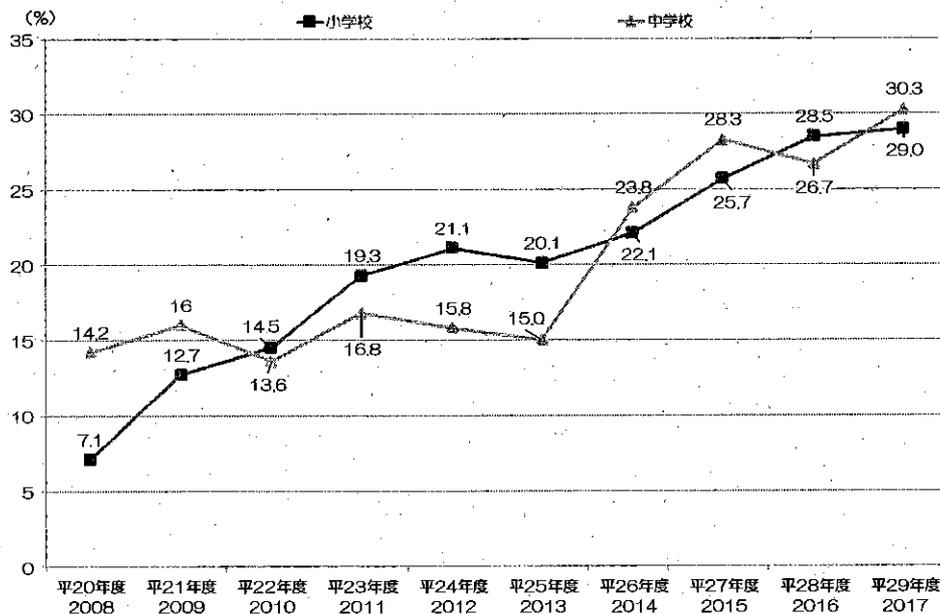
図表 1-4-6 消費者に直接販売している農業経営体数（平成 27 年）

	農業 経営体数	消費者に 直接販売	自営の 農産物直売所	その他の 農産物直売所	インターネット による販売	その他の方法
立川市	277	138	69	81	5	31
小金井市	105	77	51	10	1	25
<b>小平市</b>	<b>228</b>	<b>172</b>	<b>137</b>	<b>20</b>	<b>2</b>	<b>33</b>
東村山市	190	142	107	24	0	38
国分寺市	163	101	75	26	2	21
東大和市	93	72	46	27	1	21
東久留米市	204	147	102	19	1	41
西東京市	180	117	82	18	2	41
8市平均	180	121	84	28	2	31

出典：農林業センサス

図表 1-4-7 は、学校給食における地場産農産物の納入率の推移を表している。平成 29（2017）年度の納入率は、小学校で 29.0%、中学校で 30.3%まで上昇している。

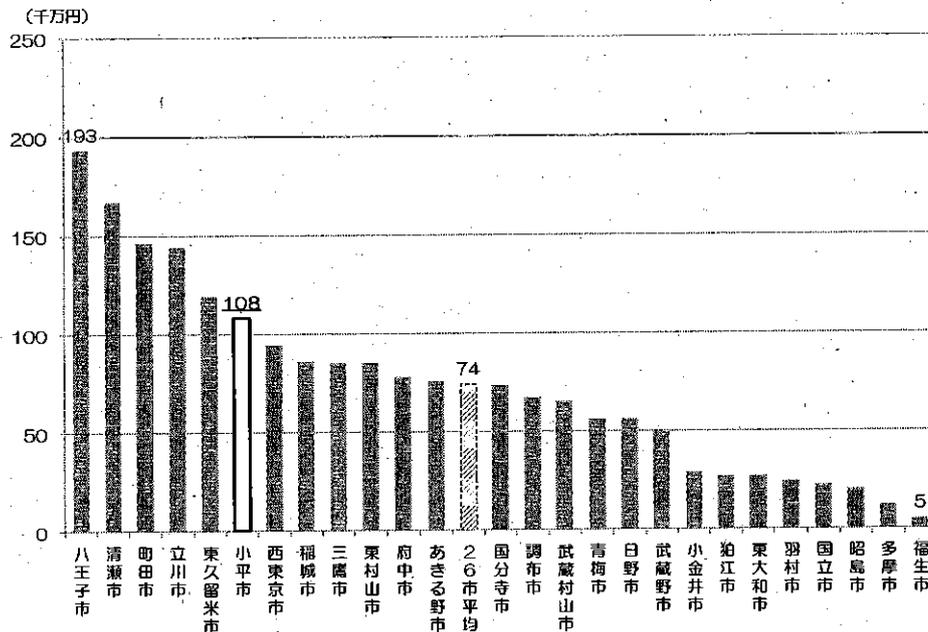
図表 1-4-7 学校給食地場産農産物納入率



出典：産業振興課、学務課

図表 1-4-8 は、多摩地域 26 市の農業産出額（推計）を多い順に表している。小平市は多い方から数えて 6 番目であり、多摩地域 26 市の平均より 3 億 4,000 万円多い。

図表 1-4-8 農業産出額（推計）（平成 28 年）



出典：農林水産省

## （2）商工業

図表 1-4-9 は、小平市の民営事業所数の推移を業種別に表している。平成 18（2006）年から平成 28（2016）年にかけて民営事業所数は概ね横ばいで推移しているものの、「P 医療、福祉」や「R サービス業（他に分類されないもの）」などは増加傾向であり、「D 建設業」や「E 製造業」、「I 卸売業、小売業」などは減少傾向となっている。

図表 1-4-9 小平市の業種別民営事業所数

	平成 18 年 2006		平成 21 年 2009		平成 24 年 2012		平成 26 年 2014		平成 28 年 2016	
	事業所数	割合								
A 農業、林業	4	0.1%	12	0.2%	11	0.2%	11	0.2%	12	0.3%
B 漁業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
D 建設業	528	11.4%	553	11.4%	500	11.1%	491	10.2%	489	10.5%
E 製造業	226	4.9%	229	4.7%	209	4.7%	207	4.3%	177	3.8%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
G 情報通信業	19	0.4%	60	1.2%	58	1.3%	52	1.1%	49	1.1%
H 運輸業、郵便業	58	1.3%	79	1.6%	65	1.4%	73	1.5%	70	1.5%
I 卸売業、小売業	1,270	27.4%	1,229	25.4%	1,105	24.6%	1,123	23.4%	1,061	22.9%
J 金融業、保険業	46	1.0%	62	1.3%	63	1.4%	55	1.1%	51	1.1%
K 不動産業、物品賃貸業	328	7.1%	393	8.1%	362	8.1%	413	8.6%	370	8.0%
L 学術研究、専門・技術サービス業	161	3.5%	229	4.7%	182	4.1%	201	4.2%	214	4.6%
M 宿泊業、飲食サービス業	687	14.8%	639	13.2%	613	13.6%	661	13.8%	634	13.7%
N 生活関連サービス業、娯楽業	486	10.5%	477	9.9%	449	10.0%	458	9.6%	454	9.8%
O 教育、学習支援業	259	5.6%	254	5.3%	232	5.2%	274	5.7%	272	5.9%
P 医療、福祉	391	8.4%	404	8.4%	421	9.4%	545	11.4%	562	12.1%
Q 複合サービス事業	20	0.4%	22	0.5%	20	0.4%	21	0.4%	20	0.4%
R サービス業（他に分類されないもの）	153	3.3%	187	3.9%	199	4.4%	209	4.4%	205	4.4%
合計	4,636	100.0%	4,830	100.0%	4,491	100.0%	4,795	100.0%	4,641	100.0%

出典：経済センサス

図表 1-4-10 は、小平市と多摩地域を比較した業種別の民営事業所数とその割合を表している。多摩地域と比較して小平市で特徴的な業種（割合が 1 ポイント以上離れている業種）についてみると、小平市の方が多い業種では、「P 医療、福祉」、「O 教育、学習支援業」、「D 建設業」であり、反対に小平市の方が少ない業種では、「E 製造業」となっている。

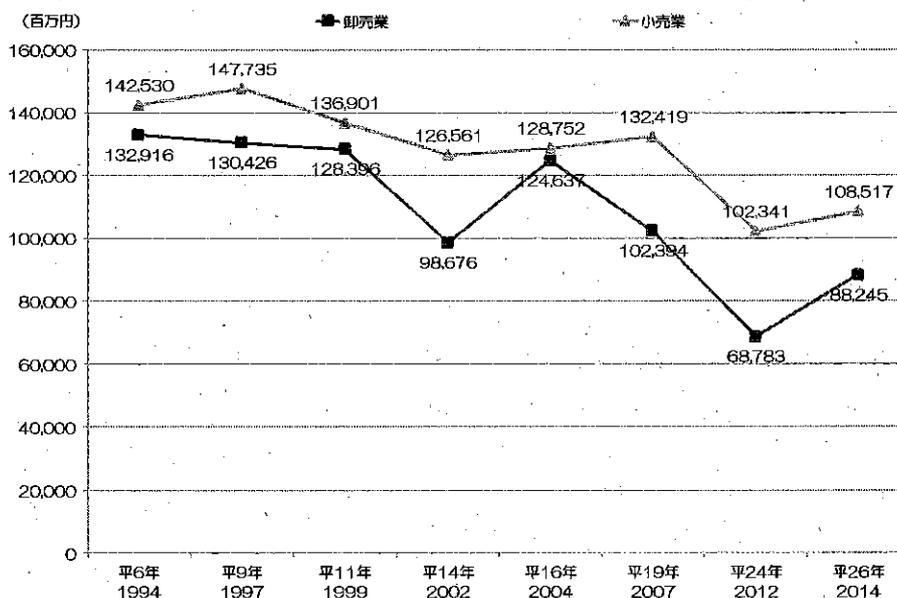
図表 1-4-10 小平市及び多摩地域の業種別民営事業所数の割合（平成 28 年）

	小平市		多摩地域		比較
	事業所数	割合	事業所数	割合	
A 農業、林業	12	0.3%	218	0.2%	0.08
B 漁業	0	0.0%	3	0.0%	▲ 0.00
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%	11	0.0%	▲ 0.01
D 建設業	489	10.5%	11,606	9.3%	1.22
E 製造業	177	3.8%	6,804	5.5%	▲ 1.65
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.0%	70	0.1%	▲ 0.03
G 情報通信業	49	1.1%	2,009	1.6%	▲ 0.56
H 運輸業、郵便業	70	1.5%	2,171	1.7%	▲ 0.23
I 卸売業、小売業	1,061	22.9%	29,223	23.5%	▲ 0.60
J 金融業、保険業	51	1.1%	1,665	1.3%	▲ 0.24
K 不動産業、物品賃貸業	370	8.0%	10,671	8.6%	▲ 0.59
L 学術研究、専門・技術サービス業	214	4.6%	5,776	4.6%	▲ 0.03
M 宿泊業、飲食サービス業	634	13.7%	17,181	13.8%	▲ 0.13
N 生活関連サービス業、娯楽業	454	9.8%	11,449	9.2%	0.59
O 教育、学習支援業	272	5.9%	5,570	4.5%	1.39
P 医療、福祉	562	12.1%	13,159	10.6%	1.55
Q 複合サービス事業	20	0.4%	505	0.4%	0.03
R サービス業（他に分類されないもの）	205	4.4%	6,472	5.2%	▲ 0.78
合計	4,641	100.0%	124,563	100.0%	

出典：経済センサス

図表 1-4-11 は、小平市の年間商品販売額の推移を表している。平成 26（2014）年には、卸売業、小売業ともにピーク時の約 7 割まで減少している。

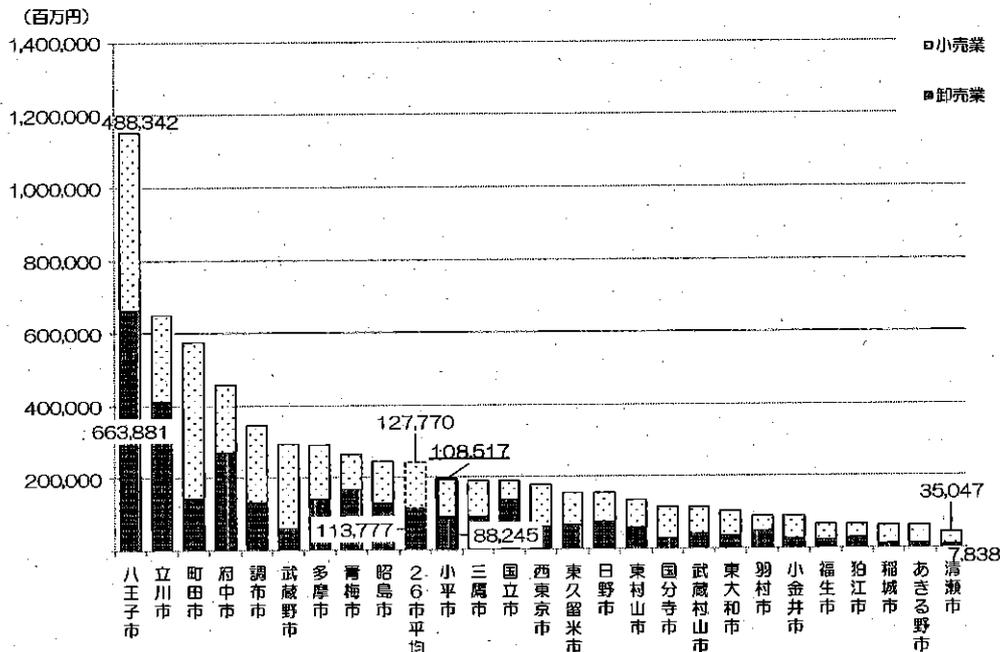
図表 1-4-11 年間商品販売額



出典：商業統計調査

図表 1-4-12 は、多摩地域 26 市の年間商品販売額を多い順に表している。小平市は多い方から数えて 10 番目であり、多摩地域 26 市の平均より 19,253 百万円少ない。

図表 1-4-12 年間商品販売額 (平成 26 年)



出典：商業統計調査

図表 1-4-13 は、小平市の業種別製造品出荷額等の推移を表している。秘匿頂の少ない平成 26 (2014) 年をみると、食料品製造業、ゴム製品製造業及び情報通信機械器具製造業を合わせた製造品出荷額等が製造業全体の 83% を占め、特定業種に特化した産業の構造となっている。

図表 1-4-13 業種別製造品出荷額等 (4人以上事業所)

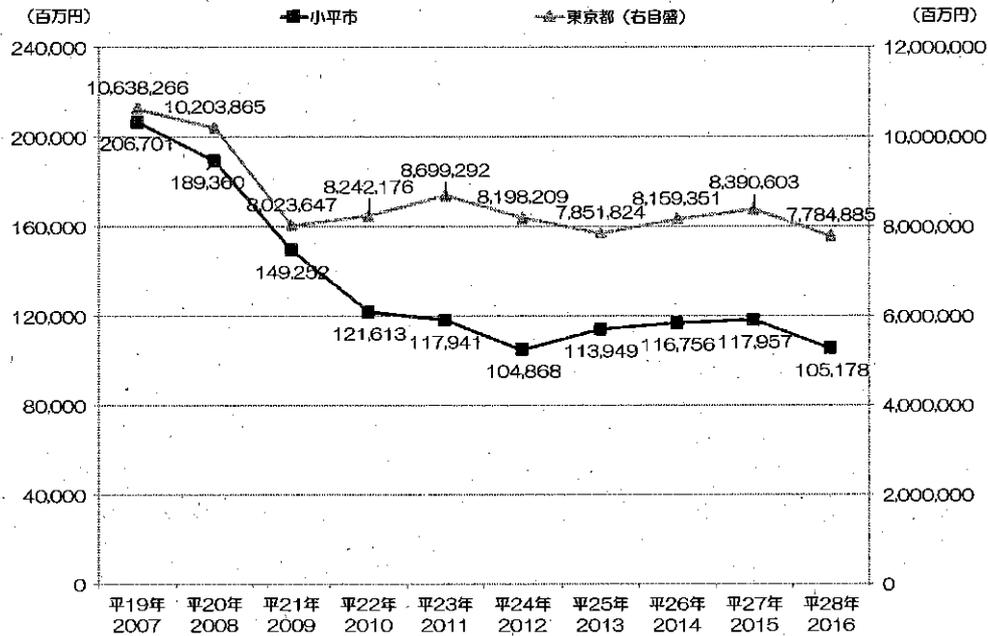
	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016
総計	1,761,163	1,722,393	1,311,646	1,212,060	1,242,262	1,182,792	1,245,776	1,328,082	1,321,451	1,310,489
農林漁業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
繊維工業	41,818	39,943	38,238	31,510	X	X	24,870	23,048	17,783	19,325
木質・木の他の繊維製品製造業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
家具・装具品製造業	52,443	47,048	36,852	33,226	30,708	27,416	25,800	20,849	31,697	17,771
パルプ・紙・紙加工品製造業	48,688	49,646	46,049	54,082	X	X	64,282	59,156	63,725	57,001
印刷・同梱業	794,959	701,145	534,127	449,659	238,374	178,815	158,190	159,540	190,057	154,559
化学工業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
プラスチック製品製造業(別掲者除く)	39,391	33,696	32,944	30,690	X	27,946	43,547	44,514	43,446	42,638
ゴム製品製造業	X	X	X	X	X	X	3,316,431	X	2,216,243	X
窯業・土石製品製造業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
鉄鋼業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属製造業	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
金属製品製造業	244,784	175,589	170,495	139,826	98,458	131,228	160,382	161,556	66,018	88,238
一般機械器具製造業	673,467	X	X	X	X	X	X	X	X	X
電気機械器具製造業	273,939	X	X	X	X	X	X	X	X	X
はん用機械器具製造業	X	482,397	497,961	631,343	627,620	742,459	780,384	821,417	1,008,914	1,065,813
半導体製造業	X	232,704	147,254	155,968	167,530	179,240	144,724	186,429	156,722	201,723
業務用機械器具製造業	X	37,050	46,659	43,326	59,412	X	X	X	X	X
電子部品・デバイス・電子回路製造業	247,024	269,187	134,647	166,921	168,847	178,801	172,818	172,405	134,469	128,189
電気機械器具製造業	X	205,634	52,552	192,244	194,856	170,254	102,047	123,702	124,869	117,356
情報通信機械器具製造業	7,927,742	6,938,374	6,322,724	3,442,867	X	X	X	6,162,390	6,066,646	X
精密機械器具製造業	15,880	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	20,604	18,429	19,073	14,135	26,263	14,588	X	X	X	X
製造業計	20,670,067	18,936,042	14,925,165	12,161,309	11,794,127	10,486,815	11,394,850	11,675,558	11,795,738	10,517,783

注：図表中の「X」は、集計対象となる事業所が 1 又は 2 であるため、これをそのまま掲げると個々の報告者の秘密が漏れる恐れがあるため秘匿した箇所である。また、集計対象が 3 以上の事業所に関する数値であっても、集計対象が 1 又は 2 の事業所の数値が合計との差し引きで判明する箇所は、併せて「X」とした。

出典：平成 20、23、27 年は経済センサス、その他の年は工業統計調査

図表 1-4-14 は、小平市と東京都の製造業全体の製造品出荷額等の推移を表している。平成 28 (2016) 年の製造品出荷額等は、平成 19 (2007) 年に比べ、小平市では約 50%、東京都では約 70%に減少している。

図表 1-4-14 製造業全体の製造品出荷額等 (4人以上事業所)

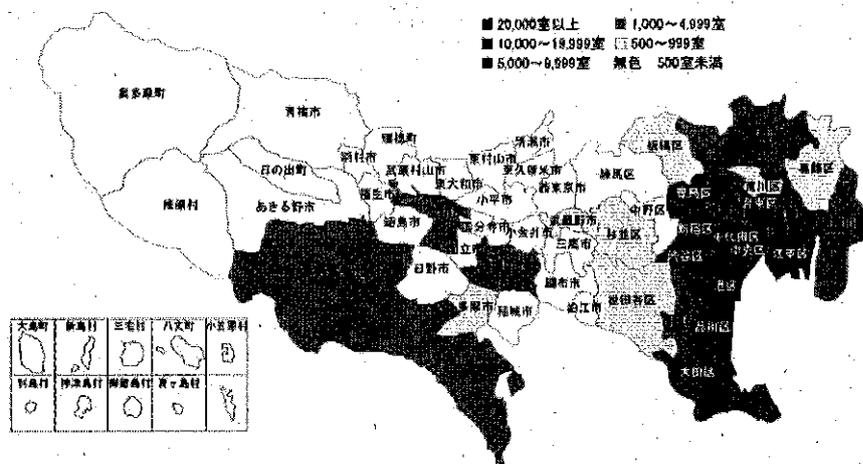


出典：平成 23、27 年は経済センサス、その他の年は工業統計調査

### (3) 観光

図表 1-4-15 は、区市町村別ホテル・旅館客室数を表している。小平市と隣接 7 市では、立川市だけが 1,000 室を超えているものの、小平市を含む他の市では 500 室を下回っている。

図表 1-4-15 区市町村別ホテル・旅館客室数 (平成 28 年度)



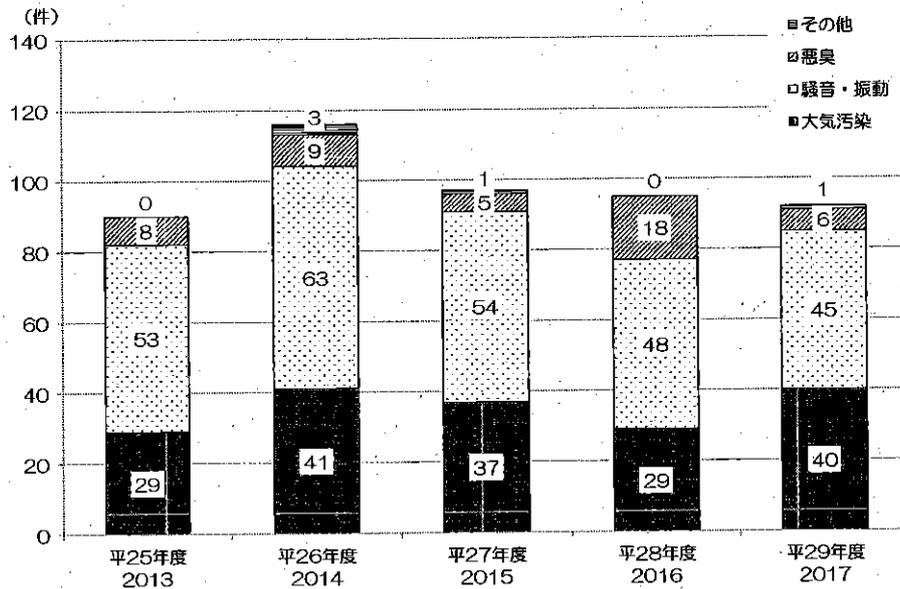
出典：東京の産業と雇用就業 2018

# 第7節 環境

## 1 環境

図表 1-7-1 は、小平市の現象別の公害相談（苦情）受付件数の推移を表している。各年度とも騒音・振動の件数が最も多く、次いで大気汚染となっている。

図表 1-7-1 現象別公害相談（苦情）受付件数

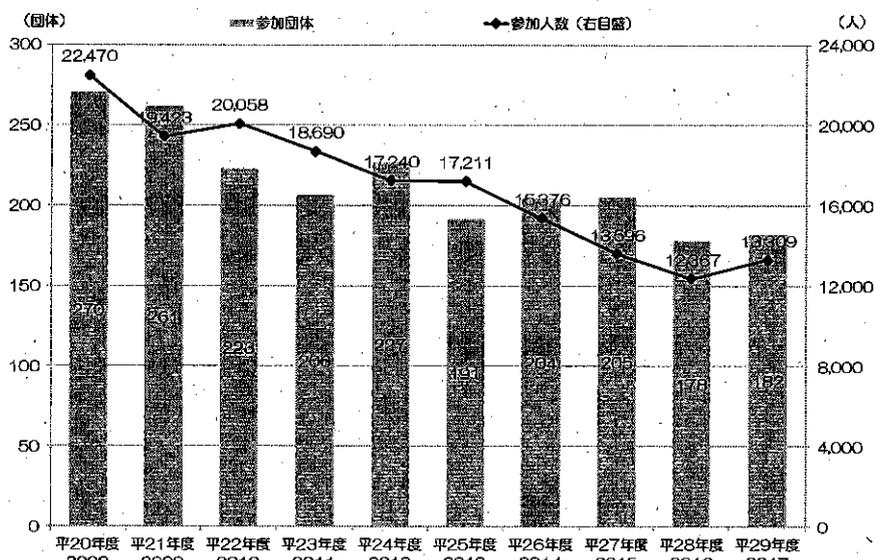


出典：小平市 統計書、環境政策課



図表 1-7-2 は、小平市の自治会等地域住民や事業者による環境美化活動（地域清掃活動）の参加団体数及び参加人数の推移を表している。参加団体数は横ばいであるが、参加人数は減少傾向となっている。

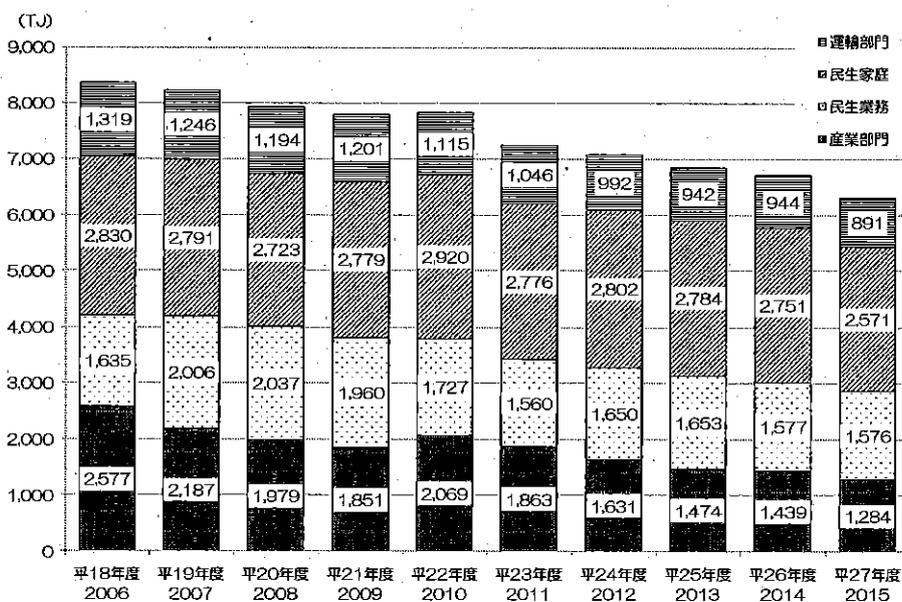
図表 1-7-2 環境美化活動実績



出典：小平市の環境

図表 1-7-3 は、小平市の部門別のエネルギー消費量\*の推移を表している。どの部門においてもエネルギー消費量は減少している。

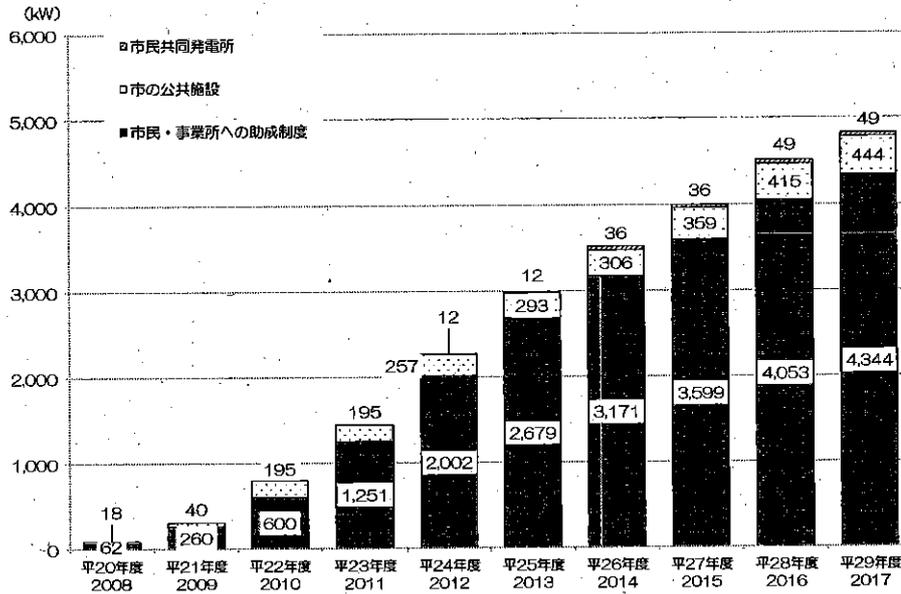
図表 1-7-3 部門別エネルギー消費量



出典：オール東京62市区町村共同事業資料

図表 1-7-4 は、市民の太陽光発電設備設置に対する小平市の助成制度、市の公共施設への設置及び市民共同発電所の太陽光発電導入容量の推移を表している。平成 29 年度は平成 20 年度に比べ、4,757kW 増加している。

図表 1-7-4 太陽光発電の導入容量

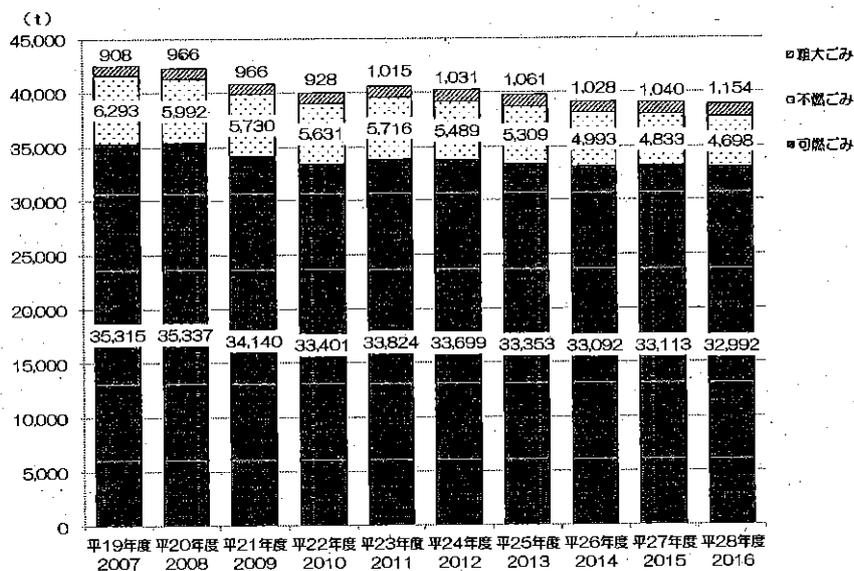


出典：環境政策課

## 2 資源循環

図表 1-7-5 は、小平市のごみの分類別処理量の推移を表している。ごみ処理量全体は年々減少し、平成 28 (2016) 年度は平成 19 (2007) 年度に比べ、約 8.6% 減少している。

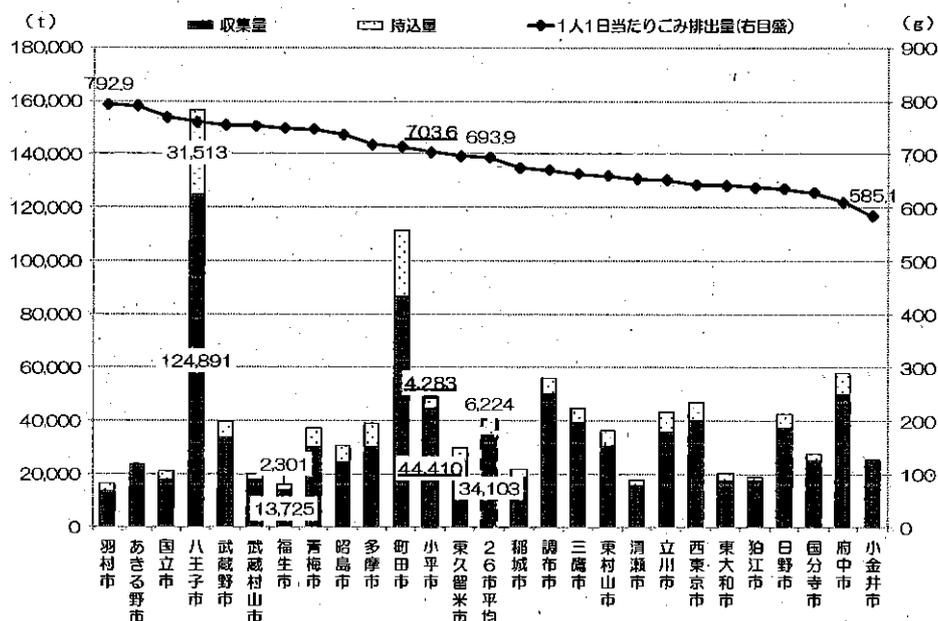
図表 1-7-5 ごみの分類別処理量



出典：小平市 統計書

図表 1-7-6 は、多摩地域 26 市の 1 人 1 日当たりのごみ（資源を含む）の排出量を多い順に表している。小平市は多摩地域 26 市と比較して 9.7g 多くなっている。

図表 1-7-6 1 人 1 日当たりごみ（資源を含む）の排出量（平成 28 年）

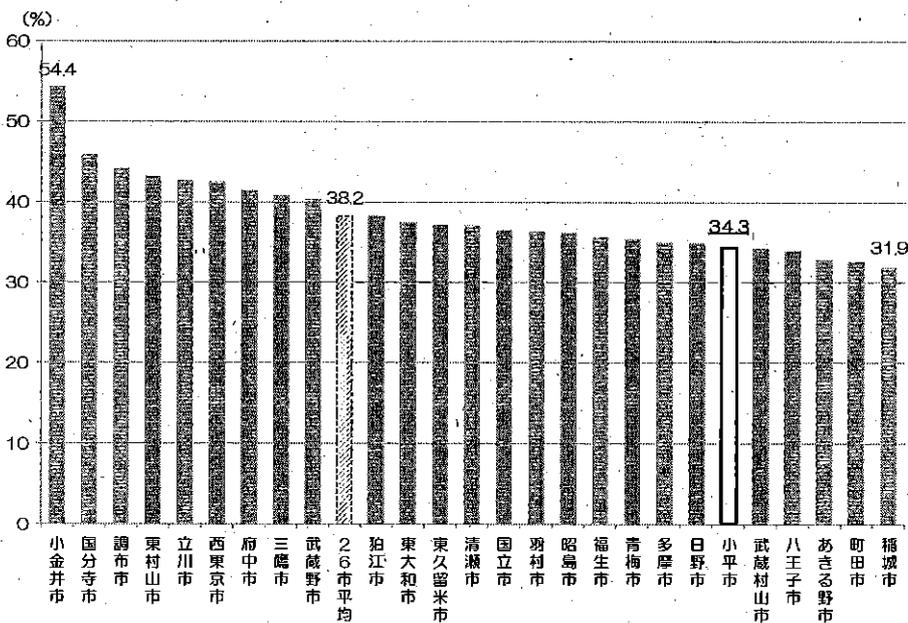


注：1 人 1 日当たりごみ排出量 = (総ごみ量 + 集団回収量) ÷ (人口 × 365 日)

出典：多摩地域データブック

図表 1-7-7 は、多摩地域 26 市のごみの総資源化率\*を、割合が高い順に表している。小平市は割合の低い方から数えて 6 番目であり、多摩地域 26 市の平均より 3.9 ポイント低い。

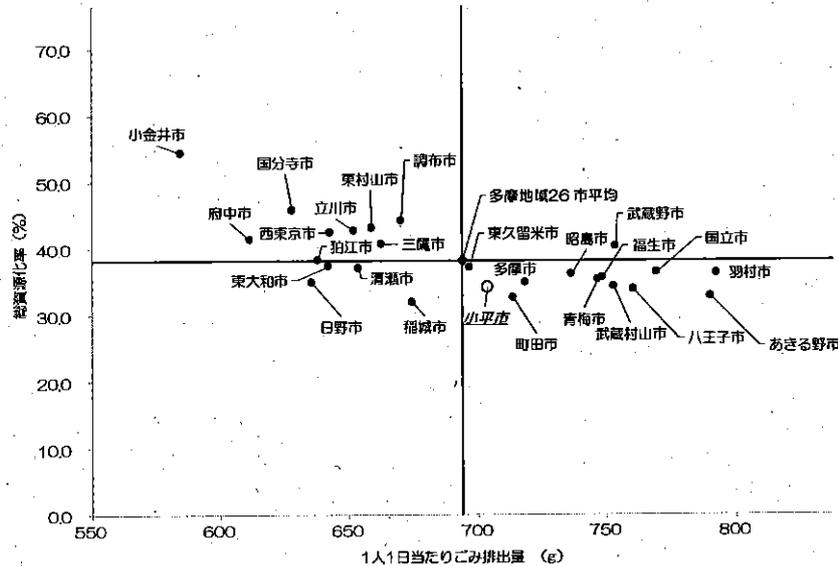
図表 1-7-7 ごみの総資源化率（平成 28 年）



出典：多摩地域データブック

図表 1-7-8 は、縦軸に総資源化率を、横軸に1人1日当たりごみ排出量をとり、多摩地域 26市平均を基準として、多摩地域 26市を配置したものである。小平市は総資源化率が低く、1人1日当たりごみ排出量が多いグループに分類される。

図表 1-7-8 1人1日当たりごみ排出量と総資源化率の関係（平成 28 年度）



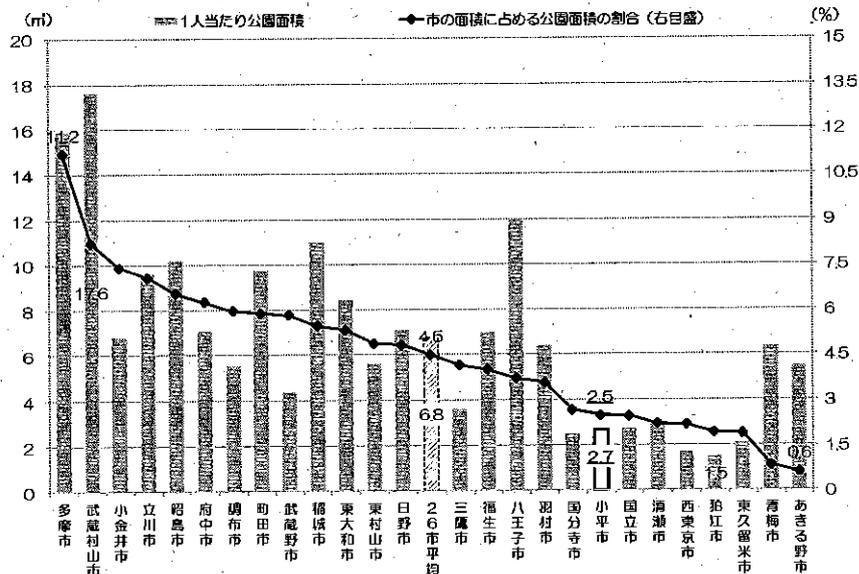
出典：多摩地域データブック

### 3 公園と用水

#### (1) 公園

図表 1-7-9 は、多摩地域 26市の市の面積に占める公園面積の割合を大きい順に表している。小平市は割合の低い方から数えて 8 番目であり、多摩地域 26市の平均より 2.0 ポイント低い。

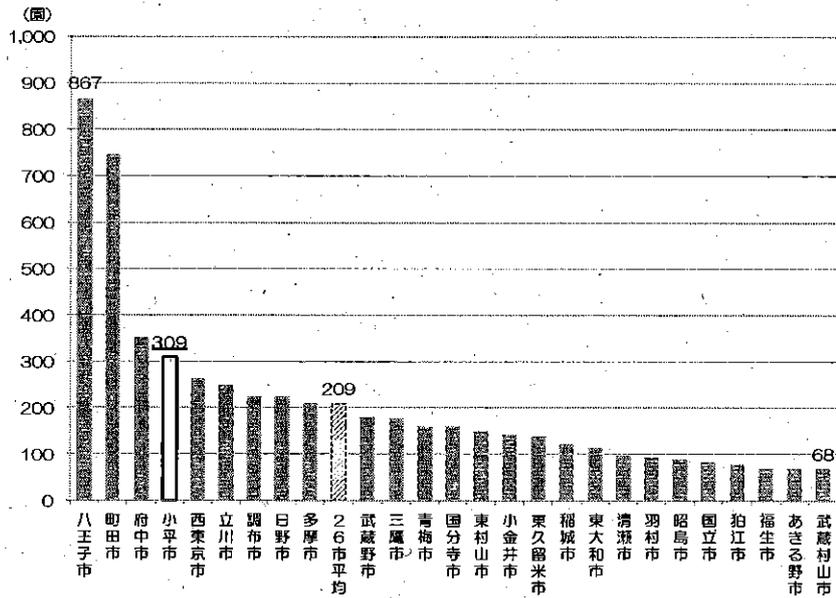
図表 1-7-9 市民 1人当たり公園面積と市の面積に占める公園面積の割合（平成 29 年 4 月 1 日時点）



出典：多摩地域データブック

図表 1-7-10 は、多摩地域 26 市の公園数を多い順に表している。小平市は多い方から数えて 4 番目であり、多摩地域 26 市の平均より 100 か所多い。

図表 1-7-10 公園数 (平成 29 年)



出典：多摩地域データブック

## (2) 用水路

図表 1-7-11 は、小平市内の用水路の一覧を表している。市内には多くの用水路が存在し、その総延長は 48.9km となっている。また、流水のある用水路は、約 33km となっており、約 65%の用水路で流水が確認できる。

図表 1-7-11 用水路の一覧

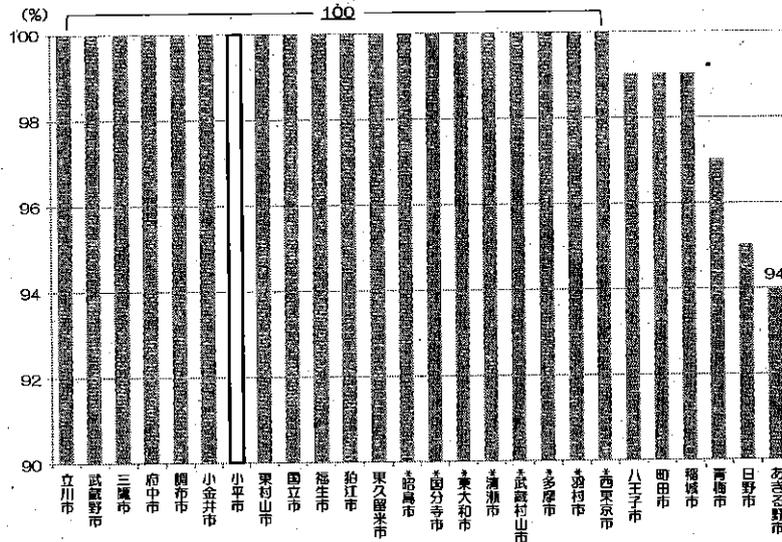
用水路名	延長 (km)	幅員 (m)	水系名	流水の有無
小川用水	17.0	3.6	落合川	有
新堀用水	6.1	3.6	—	//
鈴木用水	6.6	3.6	石神井川	一部有
田無用水	3.6	5.4	石神井川	//
大沼田用水	3.3	3.6	落合川	//
野中用水	3.4	3.6	石神井川	//
砂川用水	3.5	1.8~3.6	仙川	//
野火止用水	4.5	7.2	新河岸川	有
関野用水	0.9	3.9~4.5	—	無
合計	48.9			

出典：水と緑と公園課

## 4 下水道

図表 1-7-12 は、多摩地域 26 市の下水道普及率（合流式・分流式污水）を表している。小平市は平成 2（1990）年度に普及率 100%を達成し、全国で 13 番目という早さで整備が完了している。

図表 1-7-12 下水道普及率

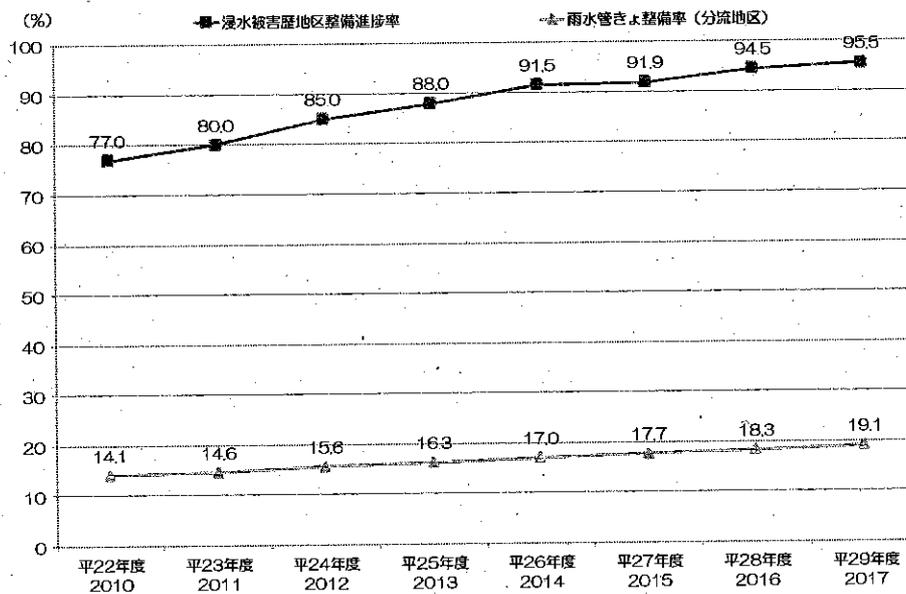


注：\* 印は、普及率 99.5%以上であるため、100%概成とした

出典：多摩地域データブック

図表 1-7-13 は、小平市の分流式雨水の下水道整備率の推移を表している。浸水被害歴地区の整備率は 95.5%であるものの、污水管の整備が優先されてきたため、分流地区の雨水管きょ整備率は 19.1%となっている。

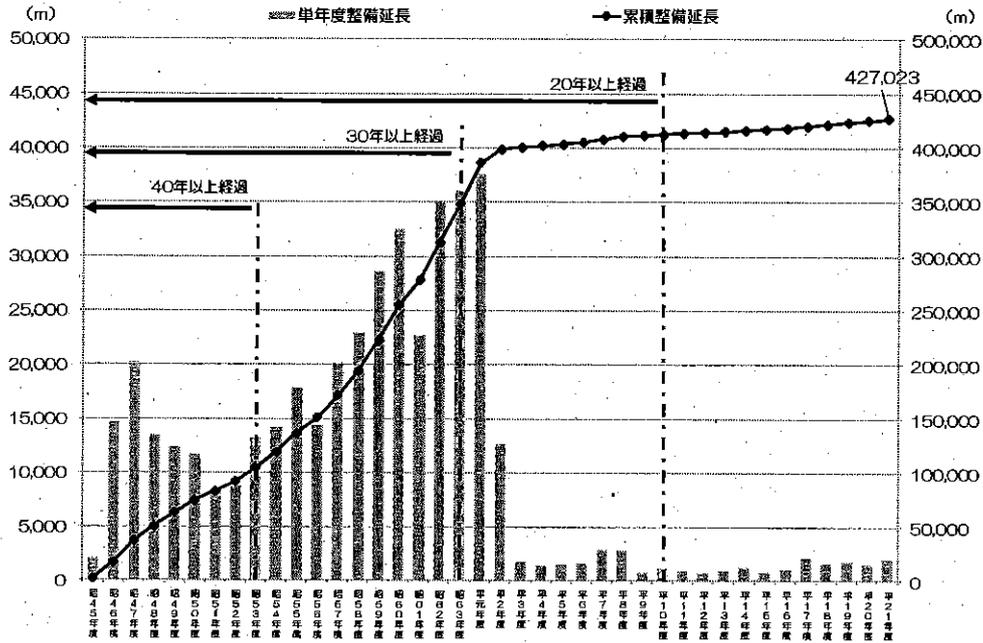
図 1-7-13 分流式雨水の下水道整備率



出典：小平市 下水道プラン

図表 1-7-14 は、小平市の下水道管きよの整備延長の推移を表している。累積整備延長のうち90%以上が整備から20年以上経過しており、今後、急速な老朽管の増加が見込まれる。

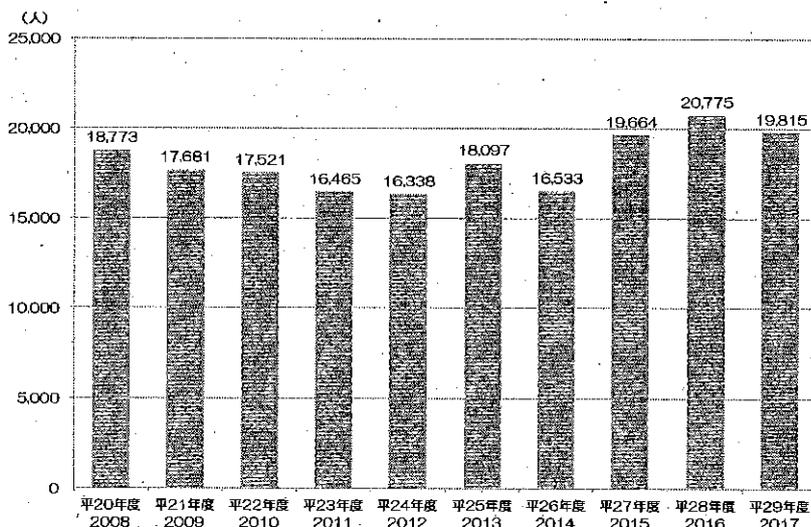
図表 1-7-14 下水道管きよ整備延長



出典：小平市 下水道プラン

図表 1-7-15 は、小平市ふれあい下水道館の来館者数の推移を表している。年度ごとの増減はあるものの近年緩やかな増加傾向であり、開館 20 周年となった平成 27 (2015) 年度には、通算の来館者数が 40 万人に達した。

図表 1-7-15 小平市ふれあい下水道館の来館者数



出典：小平市 下水道プラン



## 第7節の POINT

- ✔ 小平市全体のエネルギー消費量は減少し、また、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入容量が増加していることから、省エネ・創エネが進んでいる。
- ✔ ごみ処理量全体は減少傾向で推移しているものの、1人1日当たりのごみの排出量は多摩地域26市の平均を上回り、また、ごみの総資源化率は多摩地域26市の平均を下回っている。
- ✔ 市の面積に占める公園面積の割合は低いものの、公園数は多摩地域26市の中で4番目に多く、また、市内には48.9kmにも及ぶ用水あり、身近に自然を感じられる環境が整っている。
- ✔ 市内の下水道管については、污水管整備が早期に完了した後、雨水管の整備を進めている一方で、今後は老朽化の進んだ管きよも増えていくことから、計画的かつ適切な維持管理が求められる。

